



救出データ復元 12 ULTIMATE (Mac 版) マニュアル

※本製品は「Stellar Information Technology Pvt.Ltd」の「Stellar Data Recovery シリーズ」の一部の機能を変更し、「救出データ復元 12」シリーズと改題したものです。また、ヘルプや製品内に、本製品の機能や名称と一部異なる記述がありますので、あらかじめご了承ください。

目次 - Stellar Data Recovery

1 Stellar Data Recovery について	3
2 本ユーザーガイドについて	8
3 はじめに	9
3.1 High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元する	10
3.2 ソフトウェアの起動	15
3.3 フルディスクアクセスの割り当て	15
3.4 ユーザーインターフェイスの説明	17
3.4.1 ボタンについての説明	19
3.6 ソフトウェアのアクティベーション	20
4 ソフトウェアの操作	23
4.1 既存のボリュームからデータを復元	25
4.2 紛失したドライブ・未割り当てパーティションからのデータ復元	28
4.3 CD/DVD のデータを復元する	31
4.4 失われたパーティションを復元する	34
4.5 起動しない Mac やクラッシュしたコンピュータからのデータ復元	41
4.6 ディスクイメージの使用	49
4.6.1 イメージファイルの作成	50
4.6.2 既存のイメージからデータを復元する	55
4.7 スキャン結果のプレビュー	58
4.8 ファイルの復元と保存	61
4.9 詳細スキャン	63
4.9.1 カーネル拡張 (KEXT) を有効にする理由	66
4.9.2 システム整合性保護 (SIP) を無効にする理由	76
4.10 スキャン情報の保存と読み込み	81
4.11 詳細設定の変更	84
4.11.1 設定の変更	85
4.11.1.1 プレビューの設定	86
4.11.1.2 対応ファイル形式の選択	88
4.11.1.3 詳細オプションの設定	89
4.11.1.3.1 ファイル形式の追加	90
4.11.1.3.2 ファイル形式の編集	93
4.11.1.3.3 フィルター	95
5 対応しているファイル形式	98
6 FAQs (よくある質問)	99

目次 - Stellar Drive Monitor

1 概要 Stellar Drive Monitor	103
2 はじめに	104
2.1 High Sierra 以上使用のシステムドライブからのデータ復元 ..	105
2.2 ソフトウェアの起動	106
2.3 ユーザーインターフェイスの詳細	107
2.3.1 ボタンの使い方	108
2.3.2 設定	109
3 ディスクの監視 (モニター)	110
3.1 ディスクステータス	111
3.2 SMART ステータス	113
3.3 ディスクパーティション	115
3.4 スキャンディスク	116
3.5 クローンディスク	118
4 FAQs (よくある質問)	121

目次 - Stellar Repair for Photo

1 Stellar Repair for Photo の概要.....	123
2 はじめに.....	124
2.1 ソフトウェアの起動.....	125
2.2 ユーザーインターフェース.....	126
2.2.1 ボタン.....	127
3 操作手順.....	129
3.1 画像ファイルの追加.....	130
3.2 画像ファイルの修復.....	132
3.3 高度な修復.....	134
3.4 プレビューと画像ファイルの保存.....	137
4 よくある質問.....	139

目次 – Stellar Repair for Video

1 Stellar Repair for Video の概要	141
2 はじめに	142
2.1 ソフトウェアの起動	143
2.2 ユーザーインターフェース	144
2.2.1 ボタン	145
3 操作手順	146
3.1 動画ファイルの追加	147
3.2 ビデオファイルの修復とプレビュー	149
3.3 高度な修復	151
3.4 修復した動画ファイルの保存	153
4 よくある質問	155

使用許諾条件書

使用許諾条件書	156
---------------	-----

1.Stellar Data Recovery について

Stellar Data Recovery は、多くのデータの損失に関わる問題を解決します。データの損失は、データの破損や削除を原因として発生します。Stellar Data Recovery は、Mac のボリュームにおいて破損や削除、フォーマットにより損失したデータほとんどを復旧・復元するための包括的なソフトウェアです。Stellar Data Recovery は 破損したボリュームや削除やフォーマットが行われたボリューム全体をスキャンし、ドキュメントやメール、写真、オーディオ、動画などの失われたデータを多く検出します。スキャンの実行後に、復元可能な全 ファイルとフォルダがツリービューで表示されます。光ディスクのデータも復元可能です。ISO 9660、Joliet、UDF、APFS、HFS、Rock Ridge などのあらゆる CD/DVD フォーマットや一般的なファイルシステムに対応しています

Stellar Data Recovery は、簡単かつ効率的にデータを復元するための機能が充実しています。ボリュームの詳細スキャン、ドライブルストの自動更新、スキャン中のプレビュー表示に加え、スキャン情報の保存も可能です。復元を一時中断して後で再開したり、ボリュームやハードディスク全体のイメージを作成したりすることも可能です。さらに、目的のファイルやフォルダを絞り込んで復元しやすくする「フィルタ」もご利用いただけます。

Stellar Data Recovery の主な機能：

- 1.削除されたファイルの復元：誤って削除されたファイルを多く復元します。
- 2.パーティションの復元：多くのストレージデバイスの、破損したり、削除したり、フォーマットしたり、失われたりしたパーティションのデータを復元します。
- 3.起動しない Mac やクラッシュしたコンピュータからのデータ復元: M1 と T2 チップ システムの両方の起動しない Mac からデータを復元するオプションがあります。Mac の対応するバージョンからのリカバリをサポートします。
- 4.RAW 復元サポート：RAW ボリュームや RAW ハードドライブを復元し、署名に基づいてデータを検索します。
- 5.詳細スキャン：「詳細スキャン」は、ファイルの署名ベースで包括的な検索を実行し、データの損失が深刻な状況でも最大限の復元を試みます。詳細スキャンは、通常のスキャンでは見つからなかったファイルを復元したい場合に特に効果的です。
- 6.イメージの作成：ハードディスクおよびボリュームの復元用イメージの作成が可能です。
- 7.プレビュー機能：大半のファイル形式について、復元前のファイルのプレビューが可能です。
- 8.復元セッションの保存と再開：復元の保存と再開が可能です。ドライブを再度スキャンし直すことなく、後でデータ復元を再開できます。
- 9.T2 チップセキュリティ macOS 対応：T2 セキュリティチップを搭載したシステムからのデータ回復に対応。
- 10.M1 チップテクノロジー macOS 対応：M1 チップを搭載したシステムからのデータ回復に対応。
- 11.暗号化に対応：暗号化されたファイルシステムに対応しています。
- 12.Apple Time Capsule に対応：Apple Time Capsule のスパーズバンドルディスクイメージに対応しています。
- 13.Time Machine に対応: APFS は、Time Machine バックアップドライブからの復元に対応しています。
- 14.ドライブ情報の表示：選択したボリュームおよびハードディスクに関する詳細情報を表示可能です。
- 15.Unicode に対応：Unicode のドライブ名やイメージに対応しています。
- 16.メディアの自動更新：新しく追加されたメディアを、表示リストに自動で追加します。
- 17.高度なオプションによるカスタマイズ：本ソフトウェアは、環境設定（プレビュー、対応ファイル形式、ヘッダーの追加・編集、フィルタ）や検索について、様々な条件をカスタマイズして設定で

きます。

- 18.対応しているファイルシステム：本ソフトウェアは、以下のファイルシステムに対応しています。
 - o Mac ファイルシステム：HFS、HFS+および APFS
 - o Windows ファイルシステム：NTFS、FAT、FAT16、FAT32 および exFAT
 - o CD/DVD ファイルシステム：CDFS、UDF および HFS+
- 19.ファイルシステムの同時スキャン：複数ファイルシステムの同時スキャンに対応しており、最高のスキャン結果を提供します。
- 20.対応ファイル形式：デフォルトで 300 を超えるファイル形式に対応しています。また、ファイル形式を無制限に追加・編集することも可能です。
- 21.File Vault を使った復元：APFS File Vault からの復元に対応しています。
- 22.ドライブの大きなセクタに対応：ソフトウェアはドライブの 4K/2K セクタを提供し、紛失したパーティションの検索、イメージの作成、スキャンとプレビューを行います。また、ドライブの 4K/2K セクタを提供し、全てのファイルシステム(APFS、HFS+、FAT32、NTFS、exFAT)の復元処理を実行することもできます。
- 23.暗号化された APFS ドライブの復元に対応：暗号化された APFS ドライブからの復元に対応しています。
- 24.APFS Fusion Drive に対応：APFS は Fusion Drive オプションに対応しています。
- 25.複数のドライブ形式に対応：デスクトップおよびラップトップの内蔵 HDD、外付け HDD、Pen-Drive、メモリカード、SSD、SD カードなどのデータ復元に対応します。
- 26.OS：macOS 10.12 以降と互換性があります。

2. 本ユーザーガイドについて

このユーザーガイドは、Stellar Data Recovery の様々な機能の実行手順を解説しています。各機能についても、対応する項目内で詳しく説明しています。

このユーザガイドは、以下の主要なトピックについて説明しています。

1. Stellar Data Recovery
2. Stellar Drive Monitor
3. Stellar Repair for Photo
4. Stellar Repair for Video

ガイドには容易に理解するためと操作を誘導するために次のような機能を持っています。

- ・ガイドには、理解を深め作業を容易にするための注意事項 (Notes) とヒント (Tips) があり、それらは斜体で表示されています。

3. はじめに

3.1. High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元する

3.2. ソフトウェアの起動

3.3. フルディスクアクセスの割り当て

3.4. ユーザーインターフェイスの説明

3.5. ソフトウェアのアクティベーション

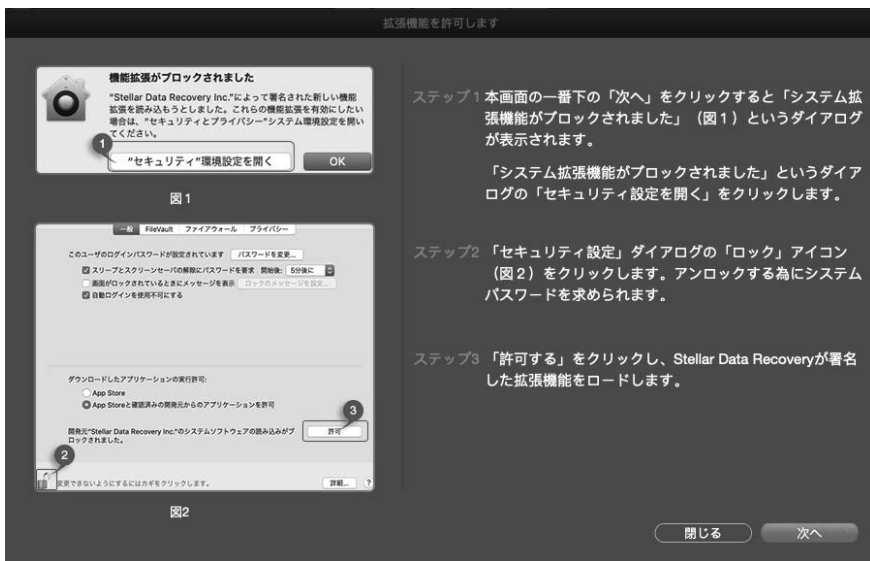
3.1. High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元する

Catalina、Mojave、High Sierra または Big Sur のシステムドライブのデータを復元する場合、「Stellar Data Recovery」で署名された機能拡張を macOS が読み込めるように許可する必要があります。macOS には、システムの機能を拡張するための小さなコードである機能拡張 がインストールされています。Stellar Data Recovery が新しい macOS のシステムドライブ上のファイルにアクセスするためには、この機能拡張が必要です。機能拡張はあらかじめ Apple によって認証されており、システムやプライバシー面に悪影響を及ぼすことはありません。システムディスクを初めてスキャンする時には、拡張機能を許可するかどうか Stellar Data Recovery に尋ねられます。拡張機能を許可する手順は以下の通りです。

1. Stellar Data Recovery で macOS ファイルを含むシステムディスクのスキャンを試みると、以下の「機能拡張の許可 (Allow Extension)」プロンプトが表示されます。



2. 「次へ (Next)」をクリックすると、機能拡張を許可するための簡単な手順を示すダイアログボックスが表示されます。




3.この画面で「次へ (Next)」をクリックすると、以下の「システム機能拡張がブロックされました (System Extension Blocked)」のダイアログボックスが表示されます。



4. 「セキュリティ設定を開く (Open Security Preferences)」をクリックし、「セキュリティとプライバシー」設定が開くまで待ちます。

メモ：たとえば「セキュリティ設定を開く (Open Security Preferences)」ではなく「システム機能拡張がブロックされました (System Extension Blocked)」ダイアログボックスで「OK」をクリックすると、Stellar Data Recovery で次にスキャンを実行するときにセキュリティとプライバシー設定を開くオプションが表示されないことがあります。その場合は、「macOS のセキュリティとプライバシー設定を手動で開く方法」に記載の手順に従い、セキュリティとプライバシー設定を手動で開いてください。



5.画面の左下隅にあるロックアイコン  をクリックします。

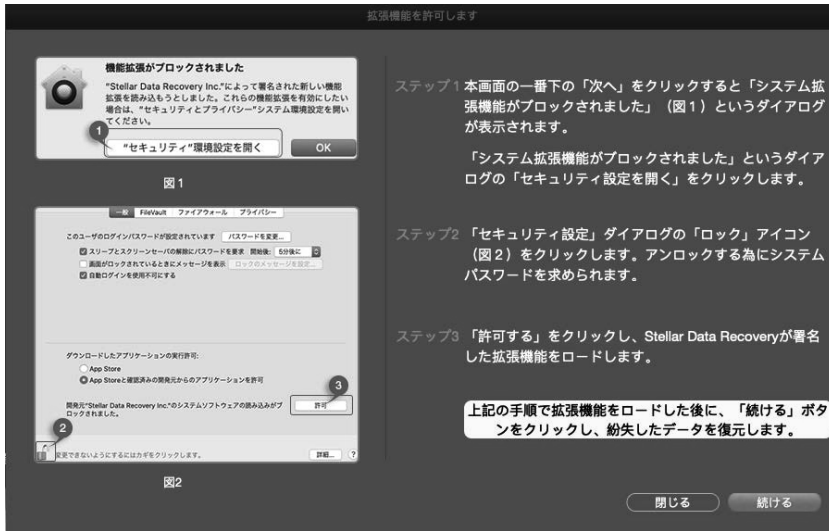
6.Touch ID または、システム管理者の認証情報を入力して、「ロック解除 (Unlock)」をクリックします。これにより、セキュリティとプライバシー画面の「許可 (Allow)」ボタンが有効になります。



7.「許可 (Allow)」をクリックすると、Stellar Data Recovery が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようになります。

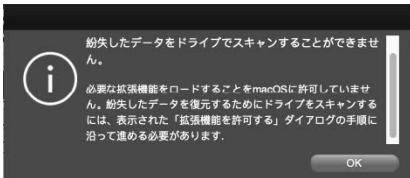
8.セキュリティとプライバシー画面を閉じて、Stellar Data Recovery に戻ります。

9.「機能拡張の許可 (Allow Extension)」画面の「続行 (Continue)」をクリックして、システムディスクのスキャンを再開します。



macOS のセキュリティとプライバシー設定を手動で開く方法：

macOS が最初の試行で機能拡張を読み込めない場合、次回に Stellar Data Recovery でシステムディスクをスキャンすると以下のダイアログが表示されることがあります。



その場合、macOS のセキュリティとプライバシー設定を手動で開く必要があります。セキュリティ設定を開く手順は次のとおりです。

1. 画面左上の Apple アイコンをクリックし、ドロップダウンメニューから「システム設定（System Preferences）」を選択します。



2. 「セキュリティとプライバシー (Security & Privacy)」を選択します。



3. 手順5に従って、macOSによるStellar Data Recoveryで署名された機能拡張の読み込みを許可します。

3.2.ソフトウェアの起動

Mac で Stellar Data Recovery を実行するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- ・ Applications (アプリケーション) フォルダの Stellar Data Recovery ファイルをダブルクリックします。-

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery ショートカットを作成した場合はそれをダブルクリックします。

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery アイコンを作成した場合はそれをクリックします。

3.3. フルディスクアクセスの割り当て

ソフトウェアが失われたデータを完全にスキャンして回復するためには、「フルディスクアクセスの割り当て」を行う必要があります。

macOS Ventura (Version 13)のフルディスクアクセスを割り当てるための手順:

1. 「セキュリティとプライバシーを開く」をクリックします。
2. 「プライバシーとセキュリティ」ウィンドウが表示されます。




- 3.右側のペインから、「プライバシー」オプションの「フルディスクアクセス」をクリックします
4. 「StellarDataRecovery」に対して表示されるスライダーを有効にし、プロンプトが表示されたら管理者パスワードを入力します。
- 5.アプリを再起動すると、変更が有効になります。

macOS バージョン 12.6 & 11.7 のフルディスクアクセスを割り当てる手順:

1. 「セキュリティとプライバシーを開く」 ボタンをクリックします。
2. 「セキュリティ&プライバシー」 ウィンドウが表示されます。「プライバシー」 タブを開きます。



3. 下部からロックアイコン  をクリックし、管理者パスワードを入力します。
4. 左側のペインにある所定のオプションから、「フルディスクアクセス」を選択し、「StellarDataRecovery」をマークします。
5. アプリを再起動して、変更を反映させます。

3.4. ユーザーインターフェースの説明

Stellar Data Recovery は、シンプルで使いやすい GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）を搭載しており、この GUI からデータの復元に必要な全機能にアクセスできます。ソフトウェアを起動すると、「復元対象を選択（Select What To Recover）」画面が表示されます。

ユーザーインターフェイスにはメニューとボタンが配置されており、ソフトウェアの様々な機能に簡単にアクセスできます。



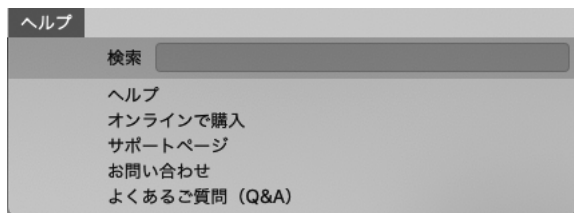
メニュー：

1. StellarDataRecovery:



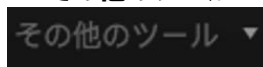
- ・ StellarDataRecovery について：Stellar Data Recovery に関する情報を表示します。

2. ヘルプ :



- ・ヘルプ：Stellar Data Recovery のヘルプマニュアルを表示します。
- ・オンラインで購入：Stellar Data Recovery を購入するためのオプションです。
- ・サポートページ：サポートページにアクセスするには、このオプションを使用します。
- ・お問合せ：サポートへお問い合わせいただくためのオプションです。
- ・よくあるご質問 (Q&A)：FAQ の記事にアクセスするには、このオプションを使用します。

3. その他のツール :



- ・その他のツール：Stellar Data Recovery のその他のツールに簡単にアクセスできます。メインインターフェイス右上隅の「その他のツール」ボタンをクリックします。

3.4.1. ボタンについての説明

Stellar Data Recovery のメインユーザーインターフェイスには、以下のボタンがあります。

	Stellar Data Recovery の設定 preferences を行うためのボタンです。
	ボリュームのイメージを作成し、保存されたスキャン情報またはイメージファイルから復元プロセスを再開するためのボタンです。
	このボタンでヘルプマニュアルを参照することができます。
	Stellar Data Recovery をオンラインで購入するためのボタンです。
	Stellar Data Recovery をアクティベーションするためのボタンです。
	次の画面に移行するためのボタンです。
	復元したデータを保存するためのボタンです。
	スキャンプロセスを開始するためのボタンです。
	このボタンで、スキャンプロセスをいつでも停止できます。
	削除または失われたボリュームを検索するためのボタンです。
	選択したドライブまたはボリュームに関する情報を取得するためのボタンです。
	Stellar Data Recovery の追加ツールにアクセスするためのボタンです。

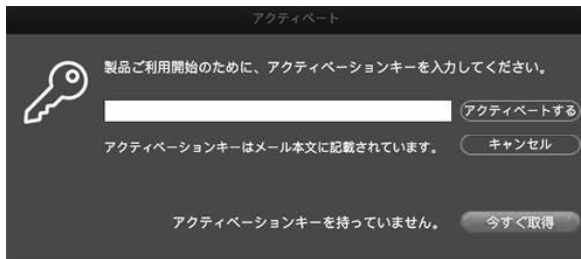
3.5. ソフトウェアのアクティベーション

オンライン・アクティベート（有効化） -

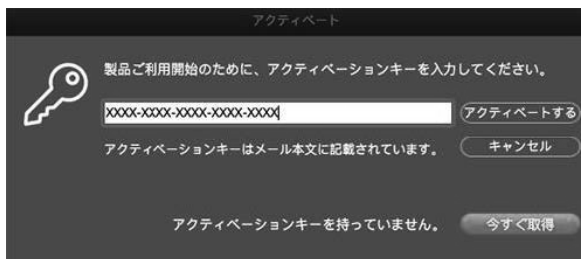
Demo version（試用版）は評価が目的です。このソフトウェアの全機能を使用するためにはアクティベートすることが必要です。ソフトウェアの購入後に届くメールに記載されているアクティベーションキー（Activation Key）を使用してアクティベート（有効化）してください。

ソフトウェアのアクティベート方法:

1. Stellar Data Recovery の試用版を起動します。
2. アクティベーション（Activation）ボタンをクリックすると、下図のアクティベーション（Activation）画面が表示されます。

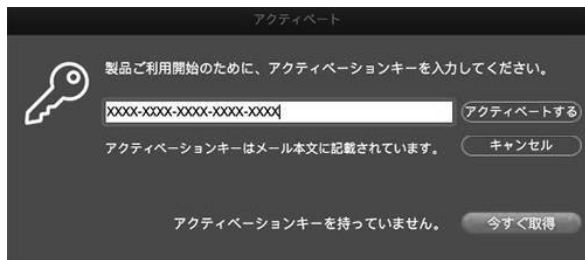


3. もし、アクティベーションキー（Activation key）をお持ちでない場合は、画面内の“今すぐ取得”ボタンをクリックしてソフトウェアを購入してください。
4. 注文が確認されると、アクティベーションキー（Activation Key）が、ソフトウェアの購入時に提供されたメールアドレス宛に送られます。
5. 製品購入後にメールでお届けしたアクティベーションキー（Activation Key）を指定個所に入力（貼付）し、“アクティベートする”ボタンをクリックしてください。（インターネットに確実に接続されていることをご確認ください）。



6. Stellar Data Recovery は、自動的にライセンスサーバと通信を行い、入力されたキーの確認を行います。キーが有効であることが確認されるとアクティベートが完了します。

7. “アクティベート完了” のメッセージが表示されたら、“OK” をクリックします。



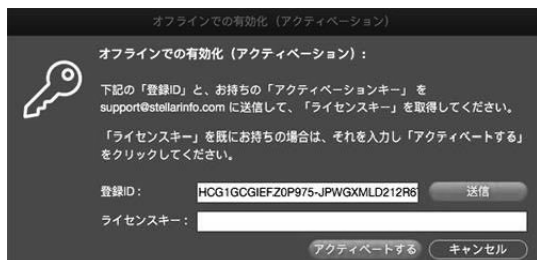
オフライン・アクティベート (有効化) -

オフライン・アクティベートは、オンライン・アクティベートができない場合にマニュアル (手動) で有効化する方法です。

オフライン・アクティベート方法:

1. Stellar Data Recovery を起動します。

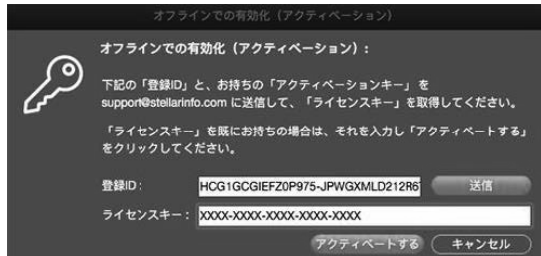
2. Preferences (詳細設定) ボタンをクリックし、Offline Activation (オフラインアクティベート) を選択します。



3. ウィンドウ内に登録用 ID (Registration ID) が発行されます。ライセンスキー (License Key) を発行するためには、ソフトウェアの購入後に受け取った登録 ID (Registration ID) とアクティベーションキー (Activation Key) の両方を含むメールを customer@sourcenext.info に送る必要があります。

注: 送信 (Send) ボタンをクリックして、登録 ID (Registration ID) を含むメールを自動的に発行することもできます。このメールにマニュアル (手動) でアクティベーションキー (Activation Key) を追加し、customer@sourcenext.info に送信してください。

4. Ontrack の担当者がメールの内容詳細を確認し、確認が完了するとライセンスキー (License Key) が返信されます。
5. オフライン・アクティベーション (Offline Activation) ウィンドウにライセンスキー (License Key) を入力し、アクティベート (Activate) をクリックします。



6. 'Stellar Data Recovery Activated Successfully' (有効化が完了しました) のメッセージが表示されたら、OK をクリックします。



4.ソフトウェアの操作

Stellar Data Recovery には、データ復元のためのさまざまなオプションが用意されています。データを復元するには、まずハードディスクまたはボリュームをスキャンする必要があります。スキャンが完了すると、スキャンしたファイルを復元前にプレビューすることが可能です。また、復元するファイルを検索し、選択することもできます。その後、選んだファイルを復元して、保存先のフォルダを選択して保存します。以前にスキャンした情報や画像ファイルを使ってデータを復元したい場合、Stellar Data Recovery でスキャンすることができます。

特定のデータを復元することも可能です。復元に関して、以下のオプションが用意されています。



- ・ **すべてを復元 (Recover Everything)** : 選択したハードディスクまたはストレージメディアの全データを復元します。ドライブやメディアに存在する、またはドライブやメディアから削除されたドキュメント、メール、動画、オーディオ、写真、ファイル、フォルダをすべて復元します。

または

・ **カスタマイズしてスキャン (Customize Your Scan) :**

- ドキュメント (Documents) : 削除または失われたドキュメントやフォルダと、その中身を復元します。
- メール (Emails) : メールボックスとその中身を復元します。
- 動画 (Videos) : 削除または失われた動画ファイルを復元します。
- オーディオ (Audio) : 削除または失われたオーディオファイルを復元します。
- 写真 (Photos) : 削除または失われた写真を復元します。

また、接続されているドライブやストレージメディアも選択可能です。

また、コンピューターのハードディスクの削除されたボリュームや失われたボリュームからもデータを復元できます。「ボリュームが見つからない場合 (Can' t Find Volume)」を選択すると、ハードディスクから削除されたすべてのボリュームが一覧表示されます。

4.1. 既存のボリュームからデータを復元

Stellar Data Recovery は、システムに接続されたハードディスクや外部ストレージメディアから、削除または失われたデータを復元できます。選択したボリュームまたはリムーバブルメディアで復元を実行することで、ボリュームのほとんどすべてのデータを検出できます。本ソフトは、APFS、HFS、HFS+、NTFS、FAT、FAT16、FAT32 および exFAT のファイルシステムに対応しています。

既存のボリュームのスキャン手順：


1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. 「復元対象を選択 (Select What to Recover)」画面で、ドキュメント (Documents)、メール (Emails)、動画 (Videos)、オーディオ (Audio)、写真 (Photos) など、復元したいデータの種類を選択します。デフォルトでは「すべてを復元 (Recover Everything)」のオプションがオンになっています。また、復元したいファイルの種類を選択し、スキャンをカスタマイズすることもできます。



3. 「次へ (Next)」をクリックします。

4. 「復元場所を選択 (Recover From)」画面で、データの復元を行うボリュームを選択します。



5. 選択したボリュームの情報を表示するには、アイコン  をクリックします。

6. 選択したボリュームで包括的なスキャンを実行する場合は、「詳細スキャン (Deep Scan)」を選択します。

7. 「スキャン (Scan)」をクリックします。

メモ：Catalina、Mojave、High Sierra または Big Sur のシステムドライブを Stellar Data Recovery で初めてスキャンする場合は、「Stellar Data Recovery」が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようにする必要があります。詳細な手順については、「High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元する」をご参照ください。

8. スキャンの進捗画面が表示されます。任意の時点でスキャンを停止する場合は、「停止 (Stop)」ボタンをクリックします。



9. スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が次のようなダイアログボックスに表示されます。



10. 「OK」をクリックします。スキャンしたデータのプレビューや復元を行う方法については、「スキャン結果のプレビュー」および「復元したファイルの保存」をご参照ください。

メモ：スキャンした情報を保存し、後で復元プロセスを再開する場合は、「スキャン情報の保存」をご参照ください。

メモ：復元ごとに選択できるボリュームは1つだけです。

4.2. CD/DVD のデータを復元する

Stellar Data Recovery は、接続されたハードディスクから紛失したドライブ・未割り当てパーティションの場所を特定し、データを復元することができます。ドライブレターが割り当てられていないとき、パーティションが誤って削除されたとき、ファイルシステムが損傷または破損したときにパーティションが未割り当て・RAW になります。未割り当てのパーティションは PC のドライブの下に表示されないため、このパーティションからファイルにアクセスすることはできません。

Stellar Data Recovery を使用すれば、失われたデータを未割り当て領域から復元し、ファイルやフォルダに簡単にアクセスすることができます。この機能は RAW 復元で動作し、失われたデータを未割り当てのパーティションから復元します。

注：NTFS、FAT、exFAT 以外のファイルシステムになっているパーティションは、このエディションが NTFS、FAT、exFAT ファイルシステムのみをサポートするため、失われたドライブまたは未割り当てのパーティションとして表示されます。

紛失したドライブからデータを復元する手順：

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. 「復元するデータの選択」画面で、復元したいデータの種類（すべて、ドキュメント、フォルダとメール、マルチメディアファイル）を選択します。デフォルトでは「すべてを復元」のオプションがオンになっています。また、復元したいファイルの種類を選択し、スキャンをカスタマイズすることもできます。



3. 「次へ」をクリックします。

4. 「場所を選択」画面で、「失われたドライブ (Lost Drive)」を選択します。



注：ハードディスクに複数の未割り当て領域がある場合、[場所を選択] の下に [紛失したドライブ 1 (Lost Drive 1)] [紛失したドライブ 2 (Lost Drive 2)] などと表示されます。回復のために一度に選択できるのは、1つの紛失したドライブのみです。

注：選択したボリュームの情報を表示するには、アイコンをクリックします。

5. 「スキャン」をクリックします。スキャン中の画面が表示されます。



注：[停止] をクリックすれば、いつでもスキャン処理を停止することができます。

6. スキャンが完了すると、検出されたファイルやフォルダの詳細が以下のようにダイアログボックスに表示されます。



7. スキャンしたデータをプレビューして復元する方法については、「スキャン結果のプレビュー」と「復元したファイルの保存」を参照してください。

4.3. CD/DVD のデータを復元する

Stellar Data Recovery は、光メディアを選択してスキャンを実行し、データを復元することが可能です。破損した CD/DVD メディアの、写真やオーディオ、動画、ドキュメントその他の重要なデータを復元できます。

CD/DVD のスキャン手順：

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. 「復元対象を選択 (Select What to Recover)」画面で、ドキュメント (Documents)、メール (Emails)、動画 (Videos)、オーディオ (Audio)、写真 (Photos) など、復元したいデータの種類を選択します。デフォルトでは「すべてを復元 (Recover Everything)」のオプションがオンになっています。また、復元したいファイルの種類を選択し、スキャンをカスタマイズすることもできます。



3. 「次へ (Next)」をクリックします。

4. 「場所を選択 (Recover From)」画面で、接続されている CD/DVD ドライブを選択します。



5. 「スキャン (Scan)」をクリックします。

6. スキャンの進捗画面が表示されます。任意の時点でスキャンを停止する場合は、「停止 (Stop)」ボタンをクリックします。



7. スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が次のようなダイアログボックスに表示されます。



8. 「OK」をクリックします。復元セッションの再開については、「保存されたスキャン情報から復元を再開する」をご参照ください。
メモ：復元ごとに選択できる CD/DVD は 1 つだけです。

4.4. 失われたパーティションを復元する

Stellar Data Recovery は、ハードディスクの削除したボリュームや失われたボリュームを検索し、データを復元できます。意図せず削除されたボリュームや、ハードディスクの破損により失われたボリュームからデータを復元したい場合の機能です。ハードディスク内の削除したボリュームや失われたボリュームをすべて検索し、現存するボリュームとあわせて一覧表示します。

失われたボリュームの検索手順：

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. 「復元対象を選択 (Select What to Recover)」画面で、「次へ (Next)」をクリックします。



3. 「場所を選択 (Recover From)」画面で、「ボリュームが見つからない場合 (Can't Find Volume)」を選択します。



4. 「次へ (Next)」 をクリックします。次の画面が表示されます。



5. 「失われたボリュームを検索するディスクを選択 (Select Disk to Search Lost Volume)」に、接続されているすべてのハードディスクと詳細が一覧表示されます。この一覧から、失われたボリュームをスキャンするハードディスクを選択し、「検索 (Search)」をクリックします。選択したディスクまたはドライブで、失われたボリュームや削除されたボリュームのスキャンが行われます。
 メモ：Catalina、Mojave、High SierraまたはBig Surのシステムドライブを初めてスキャンする場合は「Stellar Data Recovery」が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようにする必要があります。

ります。詳細な手順については、「High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元する」
をご参照ください。



6. 「失われたボリューム」が検出された場合は、以下のように画面に表示されます。



7. 選択したボリュームで包括的なスキャンを実行する場合は、「詳細スキャン (Deep Scan)」を選択します。
8. 検出されたボリュームの一覧から対象のボリュームを選択し、「スキャン (Scan)」をクリックして復元プロセスを続行します。
9. スキャンの進捗画面が表示されます。任意の時点でスキャンを停止する場合は、「停止 (Stop)」ボタンをクリックします。





10. スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が次のようなダイアログボックスに表示されます。

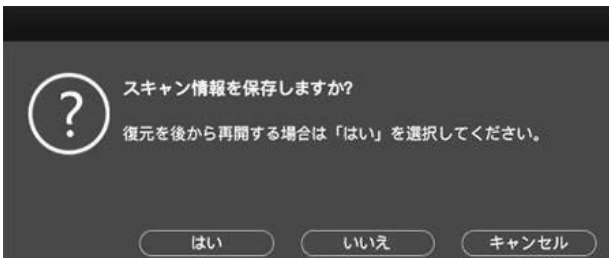


11. 「OK」をクリックします。スキャンしたデータのプレビューや復元を行う方法については、「スキャン結果のプレビュー」および「復元したファイルの保存」をご参照ください。

スキャンの結果を保存して、後で復元を再開することも可能です。これにより、ドライブをスキャンし直さなくても復元プロセスを再開できます。復元されるのは保存されたスキャンに一覧表示されているデータとなるため、スキャンを完了した上で、保存することをお勧めします。

失われたボリュームや削除されたボリュームのスキャン情報の保存手順：


1. 「データ復元を実施する失われたボリュームの選択 (Select Lost Volume to Recover Data)」で、「戻る (Back)」ボタン  をクリックするか、アプリケーションを閉じます。または、 アイコンをクリックして「スキャンを保存 (Save Scan)」を選択します。
2. スキャン情報を保存するかどうかの確認画面が表示されます。



3. 「はい (Yes)」 をクリックします。
4. 「失われたボリュームのスキャン情報を保存 (Save scan information for Lost Volumes)」 ダイアログボックスで、イメージファイルを保存する場所を指定します。「名前を付けて保存 (Save as)」のテキストボックスで イメージファイルの名前を入力します。「保存 (Save)」 をクリックします。

以前に保存した、失われたボリュームのスキャン情報を読み込む:

保存されたスキャン情報ファイルから復元プロセスを再開するための手順です。

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2.  アイコンをクリックして「スキャンの読み込み (Load Scan)」を選択します。
3. 「スキャンの読み込み (Load Scan)」画面が表示されます。ここにはシステムにある保存されたスキャン情報ファイルが一覧表示されます。



4. 目的のファイルが一覧にない場合は、「追加 (Add)」 ボタンをクリックして目的のファイルを選択します。
5. 「開く (Open)」 をクリックします。
6. 追加したファイルが「スキャンの読み込み (Load Scan)」画面に表示されます。保存されたスキャンファイルを削除するには、「削除 (Remove)」 ボタンをクリックします。

- 読み込まれたスキャンの一覧をリセットするには、「リセット (Reset)」ボタンをクリックします。
- 「復元 (Recover)」ボタンをクリックします。「失われたパーティションの検索履歴 (Searched Lost Partition History)」画面が表示されます。



- 失われたボリュームの一覧画面が表示されます。目的の失われたボリュームを選択し、「スキャン (Scan)」ボタンをクリックします。
メモ：Catalina、Mojave、High Sierra または Big Sur のシステムドライブを初めてスキャンする場
合「Stellar Data Recovery」が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようにする必要が
あります。詳細な手順については、「High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元す
る」をご参照ください。
- スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が表示されます。

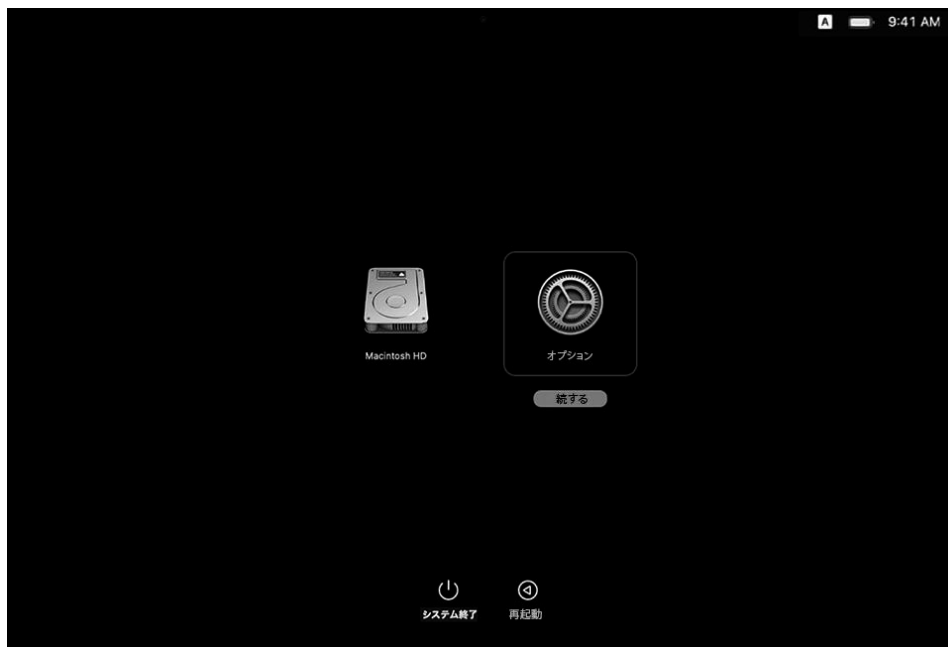
4.5. 起動しないMac やクラッシュしたコンピュータからのデータ復元

Stellar Data Recovery は、起動しない Mac やクラッシュしたコンピュータからデータを復元するためのオプションがあります。コンピュータ (つまり、ハード ドライブ) がクラッシュすると、オペレーティング システムの読み込みに失敗し、コンピュータが起動しません。このような場合、Stellar Data Recovery は、外部のブータブル デバイスを使用せずにデータを復元するオプションがあります。

注: この手順を開始する前に、Mac またはシステムの電源がオフになっていることを確認してください。

M1 チップ システムの起動しないMac やシステムディスクを復元:

1. リカバリモードが表示されるまで電源またはタッチ ID ボタンを押し、Mac の電源を入れます。
2. [オプション] を選択し、[続行] をクリックします。



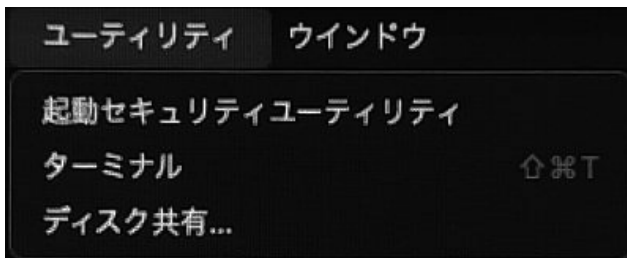
3. macOS リカバリウィンドウが表示されます。[次へ] をクリックしてログイン画面を開きます。



4. 管理者パスワードを入力し、[続行] をクリックします。リカバリモード画面が表示されます。

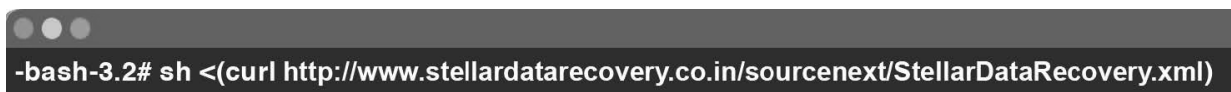
5. 次の手順に進む前に、Mac を有効な Wi-Fi ネットワークに接続します。

6. ユーティリティメニューから、ターミナルオプションを選択して、ターミナルボックスを開きます。



7. ターミナルボックスに次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
sh <(curl http://www.stellardatarecovery.co.in/sourcenext/StellarDataRecovery.xml)
```



注: コマンドを入力する際には、sh と <(curl と http の間にスペースを入れてください。

- 「ライセンス契約に同意する」をクリックし、Stellar Data Recovery の UI を開きます。
- リカバリするドライブを選択し、[スキャン]を選択します。



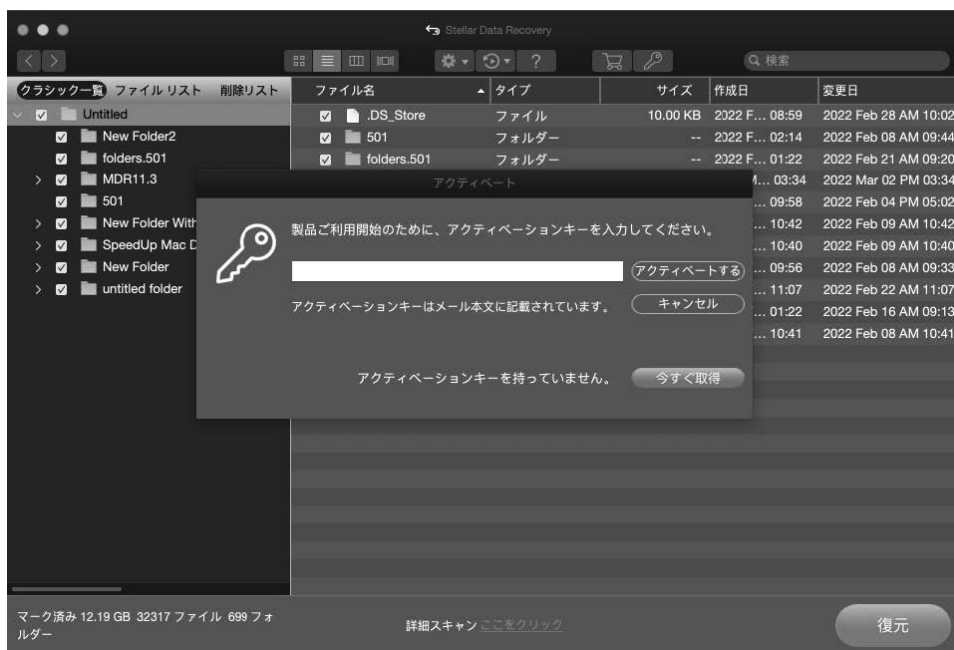
注: スキャンを終了する際には、[停止] をクリックします。



10. スキャンが完了すると、以下に示すように、スキャンが正常に完了しましたというメッセージが表示されたダイアログボックスが開きます。[OK] をクリックして続行します。



11. データを復元するには、[復元] ボタンをクリックします。[アクティベーションウィンドウ] が画面に表示されます。



注: スキャンしたデータを復元するには、ソフトウェアをアクティベートする必要があります。

12. ソフトウェアをアクティベートを参照してアクティベートを行ってください。
13. スキャンしたデータをプレビューして復元する方法については、スキャン結果のプレビューおよびリカバリされたファイルの保存を参照してください。

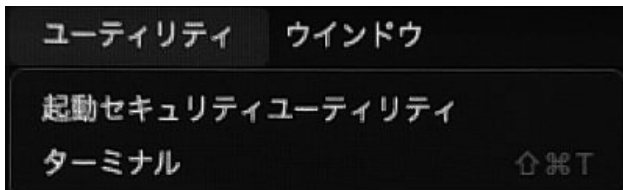
注: スキャンした情報を保存し、後で復元プロセスを再開する場合は、スキャン情報の保存を参照してください。

T2 セキュリティ チップおよびその他のすべてのマシンの起動しない Mac やシステム ディスクを復元:

- 1.電源やタッチ ID ボタンを押して Mac の電源を入れます。
- 2.直ちに Command + R ボタンを押し、リカバリモード画面が表示されるまで押し続けます。

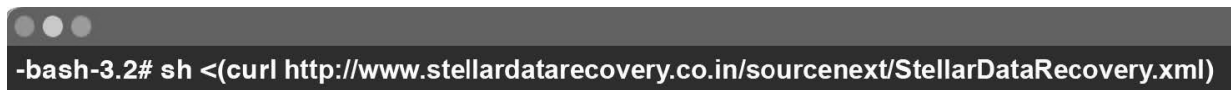


- 3.次の手順に進む前に、Mac を有効な Wi-Fi ネットワークに接続します。
- 4.[ユーティリティ]メニューから、[ターミナル]オプションを選択して、[ターミナルボックス]を開きます。



- 5.ターミナルボックスに次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
sh <(curl http://www.stellardatarecovery.co.in/sourcenext/StellarDataRecovery.xml)
```



- 注: コマンドを入力する際には、sh と <(curl と http の間にスペースを入れてください。
- 6.「ライセンス契約に同意する」をクリックし、Stellar Data Recovery の UI を開きます。

7.リカバリするドライブを選択し、[スキャン]を選択します。



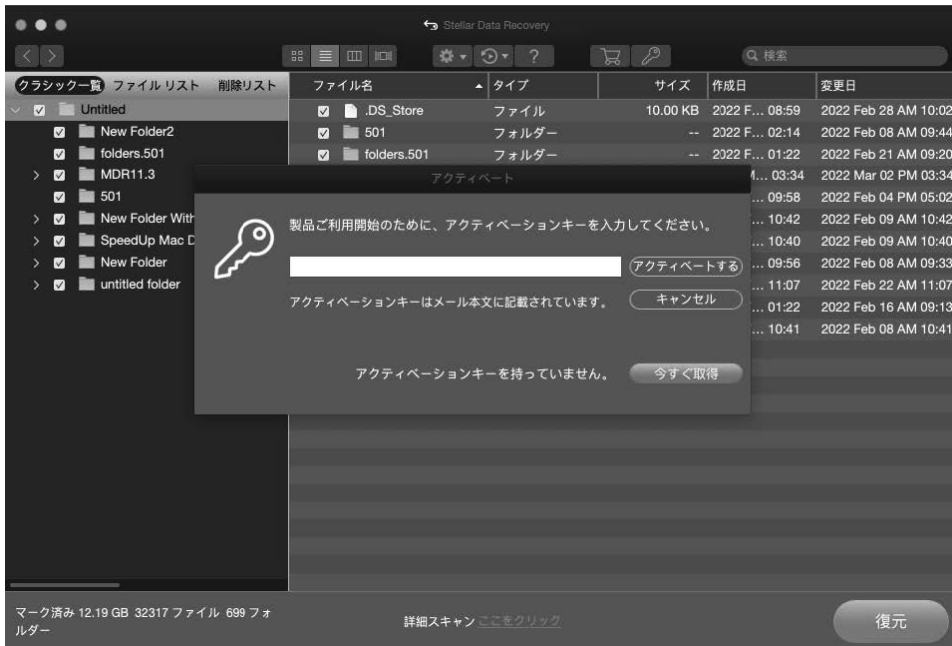
注:スキャンを終了する場合は、[停止] をクリックします。



8.スキャンが完了すると、以下のように、「スキャンが正常に完了しました」というメッセージが表示されたダイアログボックスが開きます。[OK] をクリックして続行します。



9. データを復元するには、[復元]ボタンをクリックします。[アクティベーションウィンドウ]が画面に表示されます。




注: スキャンしたデータを復元するには、ソフトウェアをアクティベートする必要があります。

10. ソフトウェアをアクティベートを参照してアクティベートを行ってください。

11. スキャンしたデータをプレビューして復元する方法については、スキャン結果のプレビューおよび復元されたファイルの保存を参照してください。

注: スキャンした情報を保存し、後で復元プロセスを再開する場合は、スキャン情報の保存を参照してください。

ターミナルボックスにコマンドを入力した後にエラーメッセージが表示される場合は、次の手順を確認します:

1. インターネット接続が有効かどうかを確認します。
 - ・ターミナルボックスにコマンドを入力する前に、有効な Wi-Fi ネットワークに接続していることを確認してください。
 2. 正しいコマンドを確認します。
 - ・コマンドを入力している間、sh と <(curl と http の間の空白を見逃す可能性があります。正しいコマンドを確認して書き直してください。
 - ・コマンドを実行できない場合は、[ここをクリックしてオンラインテクニカルサポートに連絡してください。](#)
- ソフトウェアの詳細については、[ヘルプ]  ボタンをクリックしてください。

4.6. ディスクイメージの使用

ディスクイメージは、データの復元元となる「内蔵または外付けハードディスク」、「PenDrive」、「ボリューム」、「ストレージカード」といったストレージデバイスのミラーイメージです。イメージを作成するとスキャンプロセスは実行されず、かわりに選択したソースのコピーが DMG ファイルとして保存されます。復元は、ドライブイメージの作成後に行えます。また、後から「イメージの読み込み (Load Image)」オプションで復元することも可能です。

Stellar Data Recovery は、以前に作成したディスクイメージや、新規作成したドライブやパーティション、ボリュームのディスクイメージからデータを復元できます。

- ・イメージの作成
- ・既存のイメージからデータを復元する

4.6.1. イメージファイルの作成

Stellar Data Recovery は、「イメージの作成 (Create Image)」から様々なストレージデバイスのイメージを作成し、DMG ファイルとして保存することができます。以下のストレージデバイスのイメージを作成できます。


- ・ハードディスク
- ・ハードディスク内の既存の論理ボリューム
- ・PenDrive や外付けハードディスクなどのリムーバブルメディア

上記のソースイメージは、すべて DMG ファイルとして保存されます。この DMG ファイルのサイズはソースと同じになります。これらのイメージファイルを使って、後から復元を再開できます。

Stellar Data Recovery を使って作成するイメージは、選択したハードディスクや PenDrive、ボリュームと同じサイズになります。イメージファイルの保存場所には、イメージファイルを保存するのに十分な空き容量が必要です。

ハードディスクやボリューム、リムーバブルメディアのイメージファイルの作成手順：

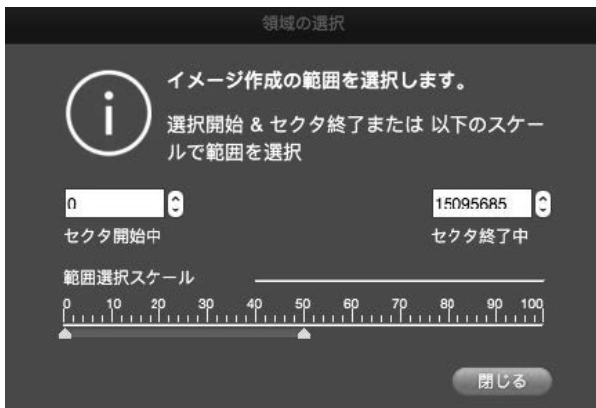
1. Stellar Data Recovery を起動します。

2. ホーム画面で  アイコンをクリックして、「イメージの作成 (Create Image)」を選択します。

3. 「イメージの作成 (Create Image)」画面で、イメージを作成するドライブやパーティションを選択します。



4. ドライブやパーティション全体のイメージを作成する場合は「次へ (Next)」をクリックします。また、選択した領域のイメージを作成する場合は、「高度な設定 (Advanced Settings)」をクリックします。「イメージ作成範囲の選択 (Select Range to Create Image)」画面で、スライダーをドラッグしてイメージファイルの開始セクタと終了セクタを定義します。「閉じる (Close)」をクリックし、「次へ (Next)」をクリックします。



5. 「保存するメディアイメージの作成 (Creating Media Image to Save)」ダイアログボックスで、イメージファイルを保存する場所を指定します。「名前を付けて保存 (Save As)」のテキストボックスに名前を入力します。「保存 (Save)」をクリックします。

メモ：Catalina、Mojave、High Sierra または Big Sur のシステムドライブを初めてスキャンする場
 合「Stellar Data Recovery」が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようにする必要が
 あります。詳細な手順については、「High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元す
 る」をご参照ください。



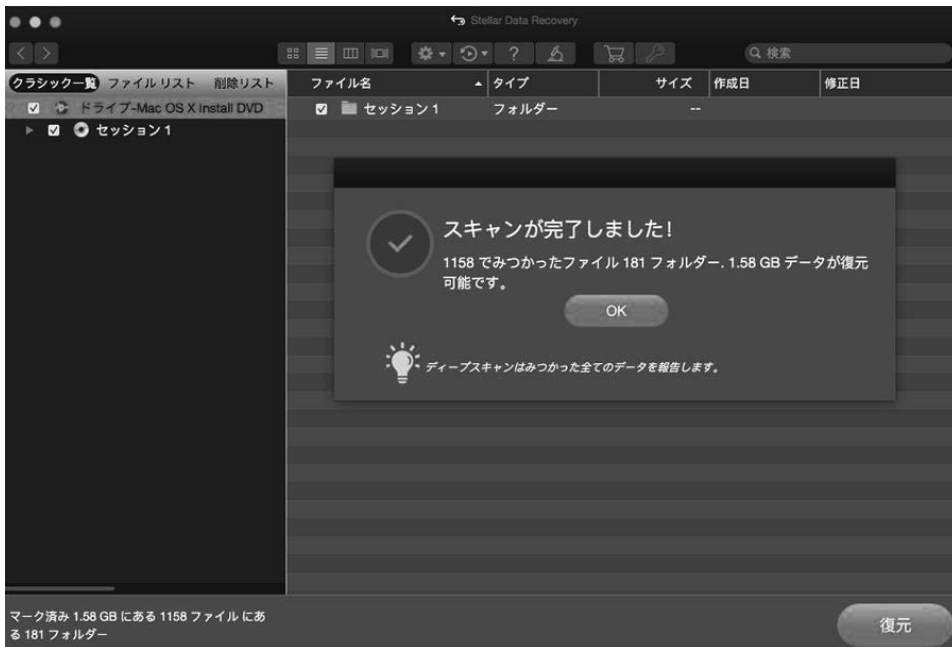
6. プロセスが完了すると、新規作成されたイメージを示す下のような画面が表示されます。



7. 「スキャン (Scan)」 をクリックして、復元を開始します。
8. スキャンの進捗画面が表示されます。任意の時点でスキャンを停止する場合は、「停止 (Stop)」 ボタンをクリックします。



9. スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が次のようなダイアログボックスに表示されます。



10. 「OK」をクリックします。

11. スキャンしたデータのプレビューや復元を行う方法については、「スキャン結果のプレビュー」および「復元したファイルの保存」をご参照ください。


メモ：スキャンした情報を保存し、後で復元プロセスを再開する場合は、「スキャン情報の保存」をご参照ください。

ヒント：必要なイメージファイルを簡単に探せるように、「スキャン情報ファイル」と「ハードディスクイメージ」はそれぞれ別の場所に、わかりやすい名前をつけて保存することをお勧めします。

4.6.2. 既存のイメージからデータを復元する

Stellar Data Recovery は、「イメージの読み込み (Load Image)」のオプションで、以前に作成したディスクイメージから復元を実行できます。

任意のディスクイメージでデータを復元する手順：

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. ホーム画面で、 アイコンをクリックして、「イメージの読み込み (Load Image)」を選択します。
3. すべてのディスクイメージとそれぞれのサイズが、「イメージの読み込み (Load Image)」画面に一覧表示されます。復元したいデータのイメージを選択します。ディスクイメージが一覧画面に表示されない場合は、「追加 (Add)」ボタンをクリックします。イメージを削除する場合はイメージを選択して「削除 (Remove)」をクリックします。すべてのイメージを削除する場合は、「リセット (Reset)」をクリックします。

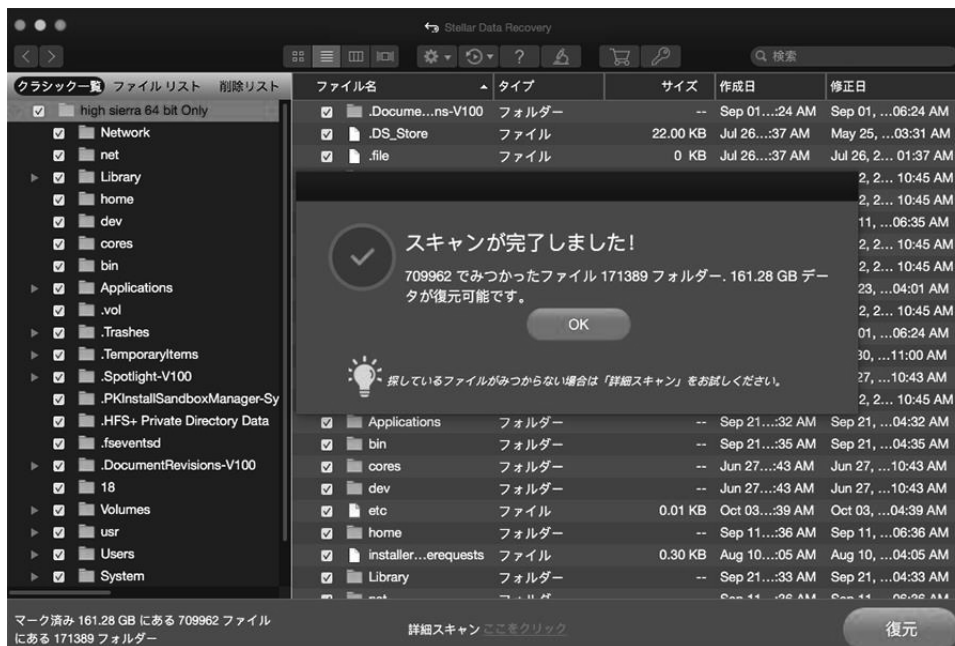


4. イメージを選択したら、「スキャン (Scan)」をクリックして復元を開始します。
メモ：Catalina、Mojave、High Sierra または Big Sur のシステムドライブを初めてスキャンする場
合「Stellar Data Recovery」が署名した機能拡張を macOS が読み込めるようにする必要が
あります。詳細な手順については、「High Sierra 以降のシステムディスクのデータを復元す
る」をご参照ください。

5. スキャンの進捗画面が表示されます。任意の時点でスキャンを停止する場合は、「停止 (Stop)」ボタンをクリックします。



6. スキャンが完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が次のようなダイアログボックスに表示されます。



7. 「OK」 をクリックします。スキャンしたデータのプレビューや復元を行う方法については、「スキャン結果のプレビュー」 および 「復元したファイルの保存」 をご参照ください。

メモ：スキャンした情報を保存し、後で復元プロセスを再開する場合は、「スキャン情報の保存」 をご参照ください。

メモ：復元ごとに選択できるボリュームは 1 つだけです。

4.7. スキャン結果のプレビュー

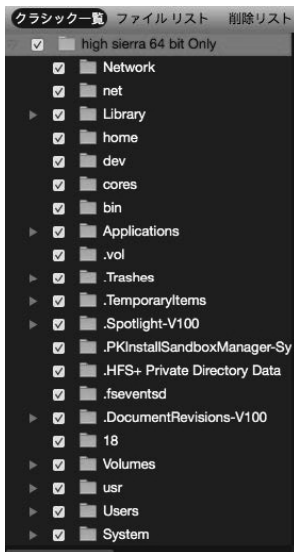
Stellar Data Recovery は、スキャンした物理ボリュームやリムーバブルメディアに存在するファイルとフォルダを表示します。スキャンしたボリュームやリムーバブルメディア内で検出されたファイルとフォルダは、すべてツリー構造で表示されます。

スキャン結果の表示を変更：

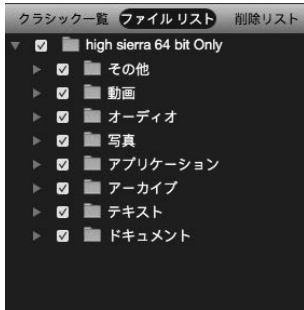
Stellar Data Recovery は、失われた・削除されたファイルやフォルダについて、復元前に以下の3通りのプレビューが可能です：

- ・クラシックリスト (Classic List)
- ・ファイルリスト (File List)
- ・削除されたリスト (Deleted List)

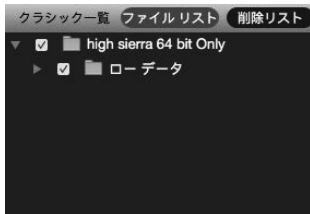
1.クラシックリスト (Classic List)：ファイルおよびフォルダをハードディスク内と同じように一覧表示します。クラシックリスト (Classic List) のプレビューを表示するには、プレビュー画面のクラシックリスト (Classic List) タブをクリックします。



2.ファイルリスト (File List)：ファイルおよびフォルダをドキュメント、オーディオ、動画、アーカイブなどの種類ごとに一覧表示します。ファイルリスト (File List) のプレビューを表示するには、プレビュー画面のファイルリスト (File List) タブをクリックします。



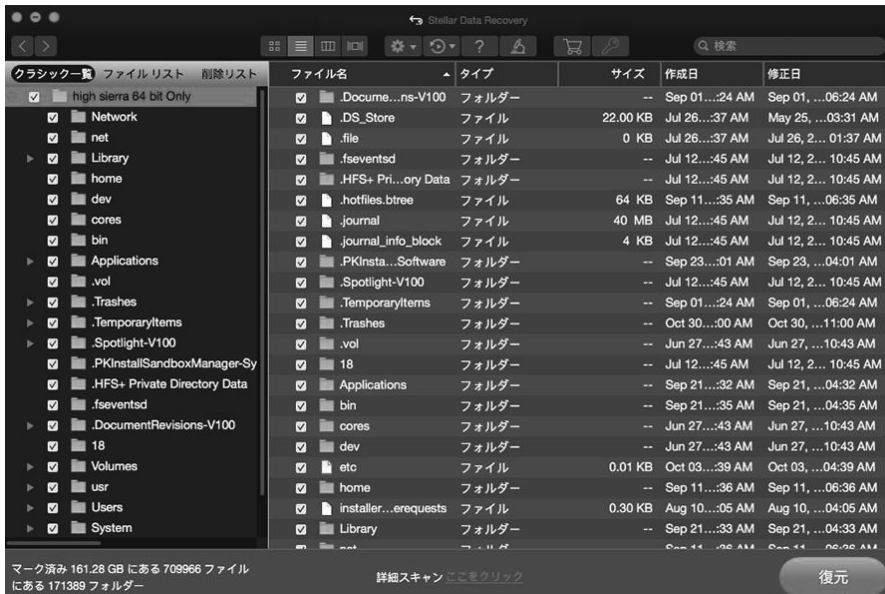
3. 削除済みリスト (Deleted List) : 削除されたファイルや RAW ファイルを一覧表示します。削除済みリスト (Deleted List) タブをクリックします。以下のようなダイアログボックスが表示されます。



プレビュー画面で特定のファイルを一覧表示することができます。

メモ：デモ版では、10 MB を超えるサイズのファイルはプレビュー表示できません。フルバージョンでは、100 MB を超えるサイズのファイルはプレビュー表示できません。

1. スキャンが完了すると、全ファイルが以下のようなツリービューで表示されます。



2.左側のパネルのタブをクリックすると、クラシックリスト (Classic List)、ファイルリスト (File List)、削除済みリスト (Deleted List) でデータが表示されます。

ファイルのプレビュー手順：

- 1.左側パネルのツリーを開き、目的のフォルダをクリックします。
- 2.右側パネルで、プレビューするファイルをダブルクリックします。
- 3.新しいウィンドウが開き、選択したファイルのプレビューが表示されます。



メモ：スキャンおよび検出したファイル一覧に目的のファイルやフォルダがない場合は、「詳細スキャン (Deep Scan)」でドライブを選択して包括的なスキャンを実行できます。

4.8. ファイルの復元と保存

Stellar Data Recovery は選択したボリューム上の全てのデータを復元することができます。ツリービューに表示されているすべてのファイルとフォルダは復元して、選択した場所に保存することができます。


データ復元の方法:

1. tree view (ツリー表示) から、復元するファイルとフォルダを選択します。特定の種類のファイルのみを復元する場合は、ツリー表示を File List に変更してください。削除したデータを復元する場合は、ツリー表示を Deleted List (削除済みリスト) に変更してください。

- 特定ファイルの検索

- o Preview (プレビュー) 画面の  テキストボックスをクリックします。

- o 目的のファイル名を search (検索) テキストボックスに入力し、Enter を押します。

- o Find Next (次を探す) optio  をクリックすると同じ文字列を持つファイルを更に検索できます。

- 全てのファイルの保存方法

- o 左側画面のルートノードにチェックを入れ、Recover (復元) をクリックします。

- 個別フォルダの保存方法

- o 左側画面の目的のフォルダをクリックすると、選択したフォルダの全てのファイルが右側画面に一覧表示されます。

- o 左側画面のフォルダにチェックを入れるか、右側画面の目的のファイルにチェックを入れ、Recover (復元) をクリックします。

- 個別ファイルの保存方法

- o 右側画面の目的のファイルを右クリックし、Recover (復元) オプションを選択します。

- 特定形式のファイルの復元方法

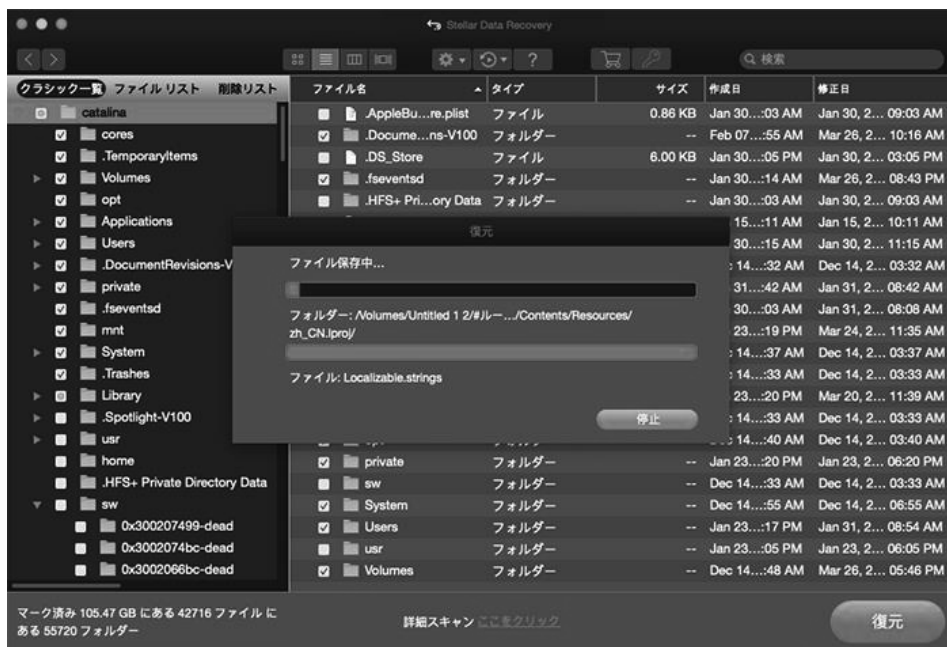
oFile List（ファイルリスト）タブをクリックします。復元したい形式のファイルにチェックを入れます。

oRecover（復元）をクリックします。

2.Recover（復元）ダイアログボックスが表示されます。Browse（参照）ボタンをクリックしてデータを保存する場所を選択します。



3.Save（保存）をクリックすると保存処理が始まります。保存先に同じファイル名が存在する場合は、上書き、名称の変更、又はスキップすることができるので、必要に応じて選択してください。選択したファイルが復元され、指定した場所に保存されます。ファイルを見るためには保存先に移動してください。



4.9. 詳細スキャン

詳細スキャンは、HDD、USB メモリ、や HDD 内のボリューム（パーティション）からデータを復元します。ボリュームの徹底的なスキャンを実行して、消失したデータまたは削除されたデータの多くを復元します。ファイルのシグネチャーに基づいて消失したファイルを検索します。このオプションは、選択した対象範囲にあるすべてを復元します。このオプションは、ボリュームの損傷が激しい場合に特に役立ちます。

Quick scan が完了し、目的のファイルが検出されたファイルのリストに含まれていない場合に、詳細スキャンを選択して、選択したドライブまたは対象範囲の徹底的なスキャンをすることができます。

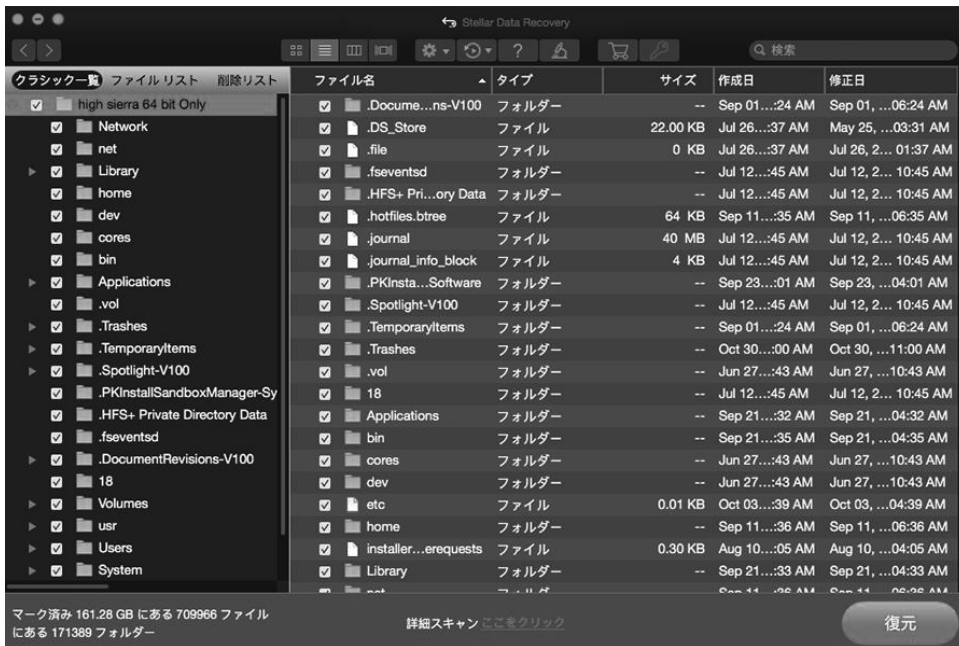
注意：

T2 チップセキュリティ macOS の場合：MacOS のボリュームまたはシステムディスクの「詳細スキャン」を初めて実行する際に Kernel Extension (KEXT) を有効にしてください。詳しくは、「Kernel Extension (KEXT) を有効にする理由」をご覧ください。

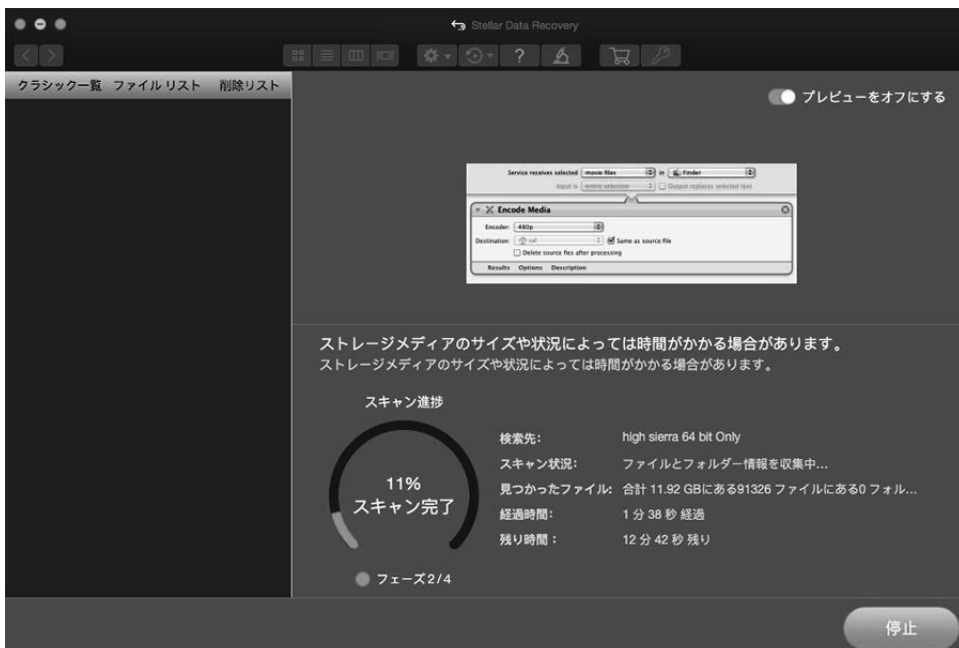
M1 チップテクノロジー搭載の MacOS の場合：MacOS のボリュームやシステムディスクの詳細スキャンを初めて実行する際に、システム整合性保護 (SIP) を無効にしてください。詳しくは、「システム整合性保護 (SIP) を無効にする理由」をご覧ください。

Deep Scan (詳細スキャン) の実行:

1. 選択したハードドライブボリュームのスキャンが完了したら、プレビューウィンドウの下部の Click Here (ここをクリック) オプションを選択して Deep Scan (詳細スキャン) を開始するか、あるいは Recovery From (復元場所を選択) 画面から直接実行することもできます。



2.画面にスキャンの動作状況が表示されます。Stop（停止）ボタンをクリックすると、いつでもスキャンを止めることができます。



3.スキャン処理が完了すると、Deep Scan（詳細スキャン）によって検出したファイルとフォルダの数を示すダイアログボックスが表示されます。

4.Deep Scan によって検出されたファイルはプレビューすることも保存することもできます。



5.スキャンされたデータのプレビューや復元の方法については、Previewing Scan Results (スキャン結果のプレビュー) と Saving the Recovered Files (復元したファイルの保存) を参照してください。

注意:スキャン情報を保存して、後で復元作業を再開する場合は、Saving the Scan Information (スキャン情報の保存) を参照してください。

注意:過去に'Load Image (イメージの読込) '画面や 'Search Lost Volume (消失したボリュームの検索) '画面に表示され、その時に保存したボリュームのイメージ (DMG) に対して Deep Scan を実行することもできます。

4.9.1. カーネル拡張（KEXT）を有効にする理由

Stellar Data Recovery では、T2 セキュリティチップを搭載した mac モデルからのデータ回復を行うことができます。T2 セキュリティチップを搭載している場合は、カーネル拡張（KEXT）のソフトウェアを許可する必要があります。KEXT は Stellar®によってデジタル署名され、Apple®によって検証されていますので、お使いのシステムとお客様のプライバシーの安全を保つことができます。

注意：任意のボリュームの詳細スキャンを実行する際に、Stellar Data Recovery ソフトウェアは、カーネル拡張（KEXT）を有効にする必要があります。このプロセスは、初めて詳細スキャンプロセスを開始するときのみ設定する必要があります。

カーネル拡張（KEXT）を許可する手順

- 1.Stellar Data Recovery を起動する。
- 2.「回復対象の選択」画面から、ドキュメント、Eメール、ビデオ、オーディオ、写真など、回復したいデータの種類を選択します。デフォルトでは、「すべてを回復」オプションがオンになっています。任意のタイプを選択して、スキャンをカスタマイズすることもできます。



- 3.「次へ」をクリックします。

4. 「回復元」画面から、データを回復したいボリュームを選択します。



5. 選択したボリュームの包括的なスキャンを行いたい場合は、ここから直接「詳細スキャン」を選択します。その後、「スキャン」をクリックします。

注意：「回復元」画面で「詳細スキャン」を選択したくない場合は、ステップ6をスキップして、「スキャン」ボタンを直接クリックしてクイックボリュームスキャンを行ってください。

6. 「拡張機能の許可」ダイアログボックスが表示されます。「次へ」をクリックして進みます。

注意：拡張機能を有効にする方法については、ステップ11からの手順に従ってください。



7. スキャンプロセスが完了する前に中止する必要がある場合は、「停止」ボタンをクリックします。



8. スキャン処理が完了すると、見つかったファイルやフォルダーの詳細が以下のようなダイアログボックスに表示されます。

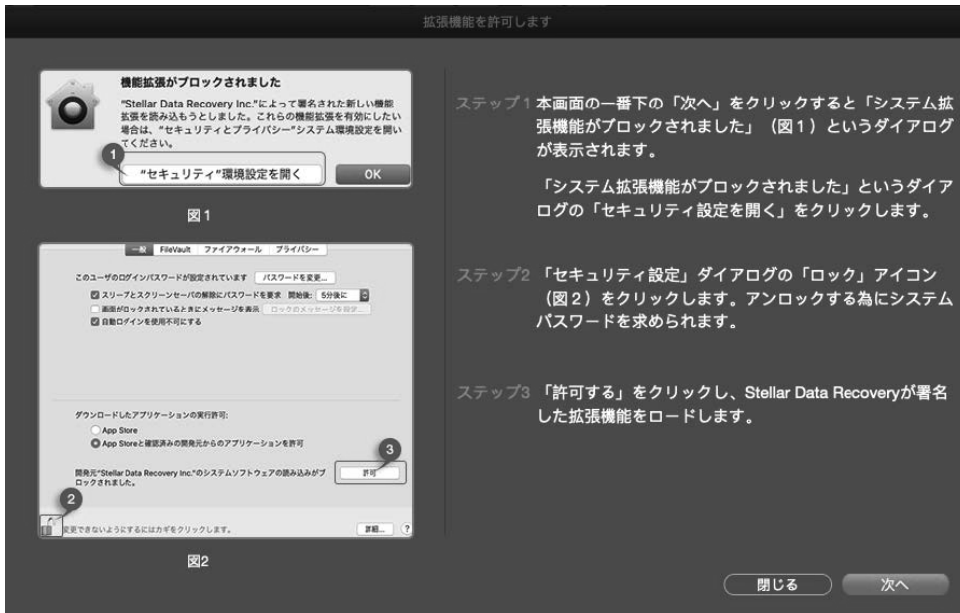


9. 「OK」 をクリックして処理を終了します。

10. 「回復元」の画面でクイックスキャンを行い、期待したデータが回復されなかった場合は、プレビューウィンドウから「ここをクリック」のリンクをクリックして詳細スキャンを実行してください。詳細スキャン ダイアログ ボックスが表示され、カーネル拡張機能 (KEXT) を有効にして詳細スキャンを実行するよう促されます。



11. 「拡張機能を有効にする」ボタンをクリックすると、拡張機能を許可するための簡単な手順を示すウィンドウが表示されます。「次へ」をクリックします。



12.カーネル拡張（KEXT）を必要とするアプリケーション名が表示された「システム拡張がブロックされました」というウィンドウが表示されます。



注意：「システム拡張がブロックされました」ウィンドウは以下の2つのケースで表示されます。


- ・ケース1：システムにKernel 拡張を必要とするアプリケーションが1つある場合。
- ・ケース2：Kernel 拡張を必要とするアプリケーションが複数ある場合。

ケース1の場合、ステップ13からステップ18までの指示に従ってください。

13. 「セキュリティ設定を開く」をクリックし、システムが「セキュリティとプライバシー」の設定を開くの待ちます。

注意：システム拡張がブロックされましたというダイアログボックスで、セキュリティ設定を開くではなく、OK をクリックした場合、Stellar Data Recovery は、次回スキャンを実行する際に、セキュリティとプライバシーの設定を開くオプションを提供しない場合があります。その場合は、macOS でセキュリティとプライバシーの設定を手動で開く方法に記載されている手順で、セキュリティとプライバシーの設定を手動で開く必要があります。



14. ウィンドウの左下にあるロックアイコン  をクリックします。

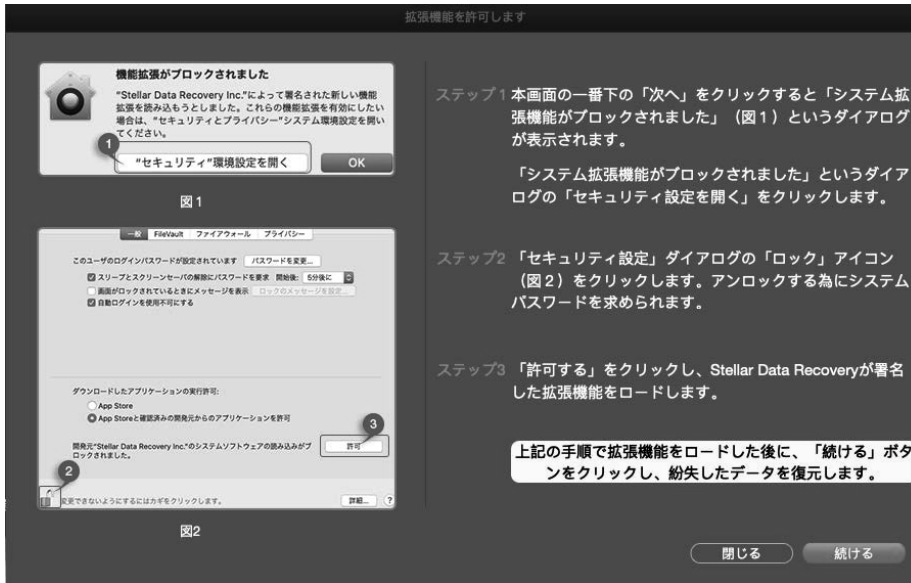
15. Touch ID（利用可能な場合）を使用するか、システム管理者の認証情報を入力し、「ロック解除」をクリックします。これにより、「セキュリティとプライバシー」ウィンドウの「許可」ボタンが有効になります。

16. 「許可」をクリックすると、macOS が「Stellar Data Recovery」で署名された拡張機能を読み込むことができます。



17. 「セキュリティとプライバシー」ウィンドウを閉じて、「Stellar Data Recovery」に戻ります。

18. 「拡張を許可」ウィンドウの「続行」をクリックして、システムディスクのスキャンを再開します。




ケース2の場合は、ステップ19から25までの手順に従ってください。

19. 「拡張を許可」ウィンドウで「次へ」ボタンをクリックします。お使いのシステムにKernel拡張をサポートするアプリケーションが複数ある場合は、「システム拡張がブロックされました」というウィンドウに利用可能なすべてのアプリケーション名が複数回表示されます。
20. 「セキュリティ設定を開く」をクリックし、システムが「セキュリティとプライバシー」の設定を開くのを待ちます。



注意：「システム拡張がブロックされました」というダイアログボックスで、「セキュリティ設定を開く」ではなく、「OK」をクリックした場合、Stellar Data Recovery は、次回スキャンを実行する際に、セキュリティとプライバシーの設定を開くオプションを提供しない場合があります。その場合は、macOS でセキュリティとプライバシーの設定を手動で開く方法に記載されている手順で、セキュリティとプライバシーの設定を手動で開く必要があります。

21. ウィンドウの左下にあるロックアイコン  をクリックします。

22. Touch ID（利用可能な場合）を使用するか、システム管理者の認証情報を入力し、「ロック解除」をクリックします。これにより、「セキュリティとプライバシー」ウィンドウの「詳細」ボタンが有効になります。



23. 「詳細」ボタンをクリックします。

24. 利用可能なアプリケーション名とチェックボックスが一覧表示されたウィンドウが表示されます。Stellar Data Recovery Inc. チェックボックスを選択し、「OK」をクリックします。

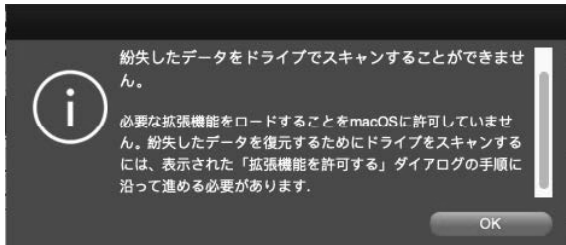


25. 「新しいシステム拡張が利用可能になる前には再起動が必要です。」というメッセージが表示されたウィンドウが表示されます。「再起動」ボタンをクリックします。



macOS で「セキュリティとプライバシー」の設定を手動で開く方法

で macOS に拡張機能を読み込ませることができない場合、Stellar Data Recovery は、次にシステムディスクのスキャンをした際に以下のダイアログボックスを表示します。



この際には macOS の「セキュリティとプライバシー」の設定を手動で開く必要があります。

セキュリティ設定を開くための手順

1.画面左上の Apple アイコンをクリックし、ドロップダウンメニューから「システム設定」を選択します。



2.「セキュリティとプライバシー」を選択します。



3.手順のステップ 14 からの手順で、macOS が「Stellar Data Recovery」で署名された拡張機能を読み込めるようにします。

4.9.2. システム整合性保護（SIP）を無効にする理由

Stellar Data Recovery は、M1 チップを搭載した Mac モデルからのデータ回復を行います。M1 チップを搭載したシステムをお使いの場合、詳細スキャンを行うためには、システム整合性保護（SIP）を無効にする必要があります。SIP は、Mac OS に導入されたセキュリティ機能で、システムディスクやパーティションへのサードパーティアプリケーションのアクセスを制限します。この機能により、Mac 上の保護されたシステムファイルやフォルダが変更されるのを防ぎます。このため、SIP を無効にすることで、ソフトウェアがデータにアクセスして回復作業を行うことができます。

注意：任意のボリュームの詳細スキャンを行う際には、Stellar Data Recovery ソフトウェアは、システム整合性保護（SIP）を無効にする必要があります。この処理は、初めて詳細スキャン処理を開始する際にのみ設定する必要があります。

SIP（システム整合性保護）を無効にする手順

1. Stellar Data Recovery を起動する。
2. 「回復対象の選択」画面から、ドキュメント、Eメール、ビデオ、オーディオ、写真など、回復したいデータの種類を選択します。デフォルトでは、「すべてを回復」オプションがオンになっています。任意のタイプを選択して、スキャンをカスタマイズすることもできます。



3. 「次へ」をクリックします。
4. 「回復元」画面から、データを回復したいボリュームを選択します。



5. 選択したボリュームの包括的なスキャンを行いたい場合は、ここから直接「詳細スキャン」を選択します。その後、「スキャン」をクリックします。
注意：「回復元」画面で詳細スキャンを選択したくない場合は、ステップ 6 をスキップして、「スキャン」ボタンを直接クリックしてクイックボリュームスキャンを行ってください。
6. 「SIP が有効な macOS で使用する手順」ウィンドウが表示され、システム整合性保護 (SIP) を無効にするための手順が表示されます。
注意：SIP を無効にする方法については、ステップ 13 からの手順に従ってください。

SIPが有効な状態のMacOSで作業する手順

i 選択した動作の実行には「System Integrity Protection (SIP)」を無効にする必要があります。下記の手順に従ってください。

ステップ1
リカバリモードにするには、Macをシャットダウンし、しばらく電源ボタンを押し続けます。「起動オプションを読み込み中」と表示されたらボタンから手を放します。'

ステップ2
「macOS HD」と「オプション」の二つのオプションが表示されますので、「オプション」を選択し、「次へ」をクリックします。

ステップ3
ユーティリティメニューからターミナルを開く

ステップ4
タイプ 'csrutil disable' Returnキーを押します。「y」を入力し、Returnキーを押し、パスワードを入力した後に再度Returnキーを押します。





表示されている手順の写真を撮ってください。

SIPが有効な状態のMacOSでの作業の詳細については [ここをクリック](#)

他にお問い合わせがございましたら、当社のテクニカルサポートまで support@stellarinfo.com 以下にご連絡ください。

OK

7. スキャンプロセスが完了する前に中止する必要がある場合は、「停止」ボタンをクリックします。

Stellar Data Recovery

クラシック一覧 ファイルリスト 削除リスト

プレビューをオフにする



ストレージメディアのサイズや状況によっては時間がかかる場合があります。
ストレージメディアのサイズや状況によっては時間がかかる場合があります。

スキャン進捗

検索先:	high sierra 64 bit Only
スキャン状況:	ファイルとフォルダー情報を収集中...
見つかったファイル:	合計 7.91 GBにある139265 ファイルにある0 フォル...
経過時間:	38 秒 経過
残り時間:	3分 10秒 残り

フェーズ1/2

停止

8. スキャン処理が完了すると、見つかったファイルやフォルダーの詳細が以下のようなダイアログボックスに表示されます。



9. 「OK」をクリックして処理を終了します。

10. 「回復元」の画面でクイックスキャンを行い、期待したデータが回復されなかった場合は、プレビューウィンドウから「ここをクリック」のリンクをクリックして詳細スキャンを実行してください。詳細スキャンダイアログボックスが表示され、システム整合性保護（SIP）を無効にしてから詳細スキャンを実行するよう促されます。



11. 「SIP を無効にする方法」 ボタンをクリックします。
12. 「SIP が有効な MacOS で使用する手順」 ウィンドウが表示され、システム整合性保護（SIP）を無効にする手順が示されます。

SIPが有効な状態のMacOSで作業する手順

 選択した動作の実行には「System Integrity Protection (SIP)」を無効にする必要があります。下記の手順に従ってください。

ステップ1
リカバリ モードにするには、Macをシャットダウンし、しばらく電源ボタンを押し続けます。「起動オプションを読み込み中」と表示されたらボタンから手を放します。'

ステップ2
「macOS HD」と「オプション」の二つのオプションが表示されますので、「オプション」を選択し、「次へ」をクリックします。

ステップ3
ユーティリティ メニューからターミナルを開く

ステップ4
タイプ 'csrutil disable' Returnキーを押します。「y」を入力し、Returnキーを押し、パスワードを入力した後に再度Returnキーを押します。



表示されている手順の写真を撮ってください。

SIPが有効な状態のMacOSでの作業の詳細については [ここをクリック](#)

他にお問い合わせがございましたら、当社のテクニカルサポートまで support@stellarinfo.com 以下にご連絡ください。



OK

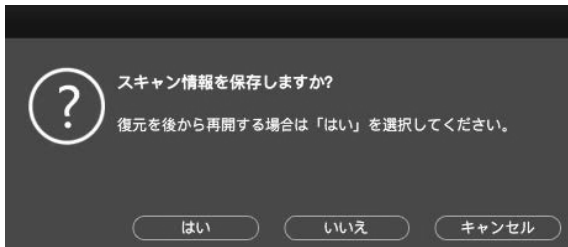
- 13.リカバリーモードに入るには、Mac をシャットダウンしてから、電源ボタンを長押しします。「起動オプションをロード中」と表示されたらボタンを離します。
- 14.あなたの「macOS HD」と「オプション」の2つのオプションが表示されます。「オプション」を選択し、「継続する」をクリックします。
- 15.「ユーティリティー」メニューから「ターミナル」を開きます。
- 16.「csrutil disable」と入力し、リターンキーを押します。「y」と入力してリターンキーを押します。ここでパスワードを入力し、もう一度リターンキーを押します。
- 17.システムを再起動して、データの回復を続けます。

4.10. スキャン情報の保存と読み込み

スキャン結果を保存し、後で復元作業を再開することができます。この機能により、ドライブを再度スキャンすることなく復元作業の再開が可能です。スキャンが完了した後に結果を保存すれば、スキャン結果の一覧に存在するデータの復元が可能になるので、スキャンの保存は、スキャン完了後にすることを勧めします。

スキャン情報の保存:

- 1.'Scan Results (スキャン結果) 画面で、Back (戻る  ボタンをクリックするか、ソフトウェアを終了します。又は、 アイコンをクリックし、Save Scan (スキャン結果を保存) オプションを選択してください。
- 2.スキャン情報を保存するように促されます。



- 3.Yes をクリックします。
4. 'Save scan information' (スキャン情報の保存) ダイアログボックスで、イメージファイルを保存する場所を指定、Save As (名前を付けて保存) テキストボックスにイメージファイルの名前を入力し、Save (保存) をクリックします。

スキャン情報ファイルが保存されます。


注意:スキャンを途中で停止した場合は、その時点までスキャン情報を保存できます。ただし、完全な結果を得るためには、完全にスキャンを終了させてから結果を保存する必要があります。

ヒント:必要なファイルを簡単に見つけ出すことができるように、'scan information file' (スキャン情報ファイル) と 'hard disk image' (ハードディスクイメージ) は、適切な名前で別々の場所に保存することをお勧めします。

保存したスキャン情報の読み込み:

このオプションは、保存したスキャン情報ファイルからデータの復元処理を再開するために使用します。

1.Stellar Data Recovery を起動します。

2.  アイコンをクリックし、Load Scan (スキャンの読込) オプションを選択します。

3.Load Scan (スキャン結果の読み込み) 画面が開き、システムから作成・保存されたスキャン情報フ



イルの一覧が表示されます。

4.目的のファイルがリストに表示されていない場合は、Add ボタンをクリックして目的のファイルを選択します。

5.Open (開く) をクリックします。

6.追加したファイルがロードスキャン画面に表示されます。保存してある削除したいスキャンファイルがある場合は、Remove (削除) ボタンをクリックしてください。

7.Reset (リセット) ボタンをクリックして スキャン結果の読み込みリストを更新します。

8.Recover (復元) ボタンをクリックします。スキャン処理を示す画面が表示されます。 t☒0g☒



9. スキャン処理が完了すると、検出されたファイルとフォルダの詳細が下図のダイアログボックスに表示されます。:



10. OK をクリックします。


注意: 1 回のスキャン処理に対して選択できるファイルは 1 つだけです。

4.11. 詳細設定の変更

は、個人的な趣向に合うように詳細設定を変更することができます。

詳細設定の変更方法:

1. Stellar Data Recovery を起動します。

2. ツールバー上の  アイコンをクリックします。


- ・ 詳細設定の一般的な変更を行なう為には、Settings（設定）オプションをクリックします。
- ・ アップデートの確認を行なう為には、Update（アップデート）ボタンをクリックします。
- ・ ソフトウェアのアクティベート（有効化：登録）をオフラインで行なう為には、Offline Activation（オフラインアクティベート）ボタンをクリックします。（ソフトウェアがアクティベートされていない場合に限り有効）
- ・ ソフトウェアの上位版へのアップグレードを行なう為には、Upgrade to Higher Edition（上位へのアップグレード）ボタンをクリックします。（ソフトウェアがアクティベートされている時のみ有効）
- ・ ソフトウェアの表示言語を変更するためには、Languages（言語）ボタンをクリックします。




4.11.1. 設定の変更

Stellar Data Recovery は必要に応じて設定を変更することができます。

設定変更の方法:

1. Stellar Data Recovery を起動します。


2. ツールバー上の  アイコンをクリックし、Settings (設定) オプションをクリックすると、新たな Settings (設定) 画面が開きます。

- Settings (設定) 画面で、Preview (プレビュー)  ボタンをクリックすると、プレビュー画面の詳細な設定ができます。
- 詳細スキャンでデータ復元の対象とするファイル形式を選択する場合は、Supported File Types (対応するファイル形式)  ボタンをクリックします。
- データ復元の対象とするファイル形式の追加または編集を行なう場合は Advanced Options (詳細オプション)  ボタンをクリックします。

4.11.1.1. プレビューの設定

Preview (プレビュー) タブは、Stellar Data Recovery のスキャン処理中の種々のプレビュー機能で構成されています。設定画面上のプレビューオプションを使用してプレビューの設定をカスタマイズすることができます。

ファイルのプレビューをサムネイル表示する:

1. Settings (設定) 画面で Preview (プレビュー)  ボタンをクリックします。



2. (アイコンの代わりにファイルプレビューを表示する) チェックボックスをオンにすると、関連するファイルアイコンの代わりにサムネイルビューがプレビューできるようになります。

セーフモードで RAW 形式や破損ファイルをプレビューする

・ (セーフモードで RAW 形式/破損ファイルをプレビューする) チェックボックスをオンにします。

スキャン処理中に、検出した写真のプレビューを表示する。

・ (スキャン処理中に検出した写真のプレビューを表示) 'チェックボックスをオンにします。

容量の大きなファイルのプレビューを要求するメッセージを表示する。

- ・(容量の大きなファイルのプレビュー前にメッセージを表示) チェックボックスをオンにし、容量の大きなファイルのプレビュー動作が遅くなる場合にメッセージを表示するようにします。



指定したサイズ以下のパーティションを表示しない。

- ・(容量の小さなパーティションを非表示にする) チェックボックスをオンにします。
- ・ドロップダウンメニューから適切な容量を選択します。

4.11.1.2. 対応ファイル形式の選択

ファイル形式には、ビデオ、オーディオ、およびその拡張子など、ファイルの種類に関する情報が提供されています。シグネチャー検索の実行中にファイルの種類を選択して、スキャン処理で指定のファイルの種類だけを検索するように絞り込むことができます。Stellar Data Recovery のファイルリストオプションには様々なファイル形式がリストアップされていますので、回復に必要なファイルの種類だけを選択することができます。

ファイル形式 (File List) の選択方法：

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. ツールバー上の  アイコンを選択し、Settings (設定) オプションを選択すると、Settings (設定) 画面が開きます。
3. Settings (設定) 画面の Supported File Types (対応しているファイル形式)  ボタンをクリックします。



4. 対応している全てのファイル形式が一覧表示されますので、回復したいファイルの種類を先頭のチェックボックスを使用して選択します。

4.11.1.3. 詳細オプションの設定

Settings (設定) ダイアログの Advance Options (詳細オプション) タブでは、Stellar Data Recovery を使用してさまざまなファイル形式の設定を行うことができます。

Advanced Options (詳細オプション) は以下のオプションを含みます。

- 新しいファイル形式を手動または自動で追加するには、Add File Type (ファイルタイプの追加) ボタンをクリックします。
- 既存のファイルタイプの容量を編集するには、Edit File Type (ファイルタイプの編集) ボタンをクリックします。
- フィルタを適用したり、特定の基準に基づいてファイルを含めたり除外したりするには、Filter (フィルタ) ボタンをクリックします。



4.11.1.3.1. ファイル形式の追加

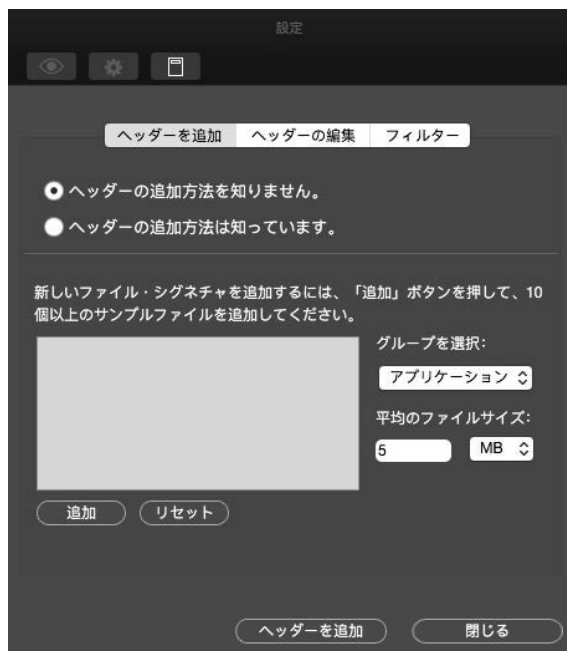
Stellar Data Recovery は、既に対応しているファイル形式の定義リストに、Preferences（詳細設定）画面の Add File Type（ファイル形式の追加）オプションを使用して新たなファイル形式を追加することができます。

ファイル形式はどちらの方法でも追加できます。

- ・ Automatically（自動）
- ・ Manually（手動）

ファイル形式を自動追加する方法:



1. Stellar Data Recovery を起動します
2. ツールバー上の Preferences （詳細設定）オプションを選択し、Settings（設定）ボタンをクリックすると、Settings（設定）画面が開きます。
3.  アイコンをクリックし、Add File Type（ファイル形式の追加）タブを選択します。

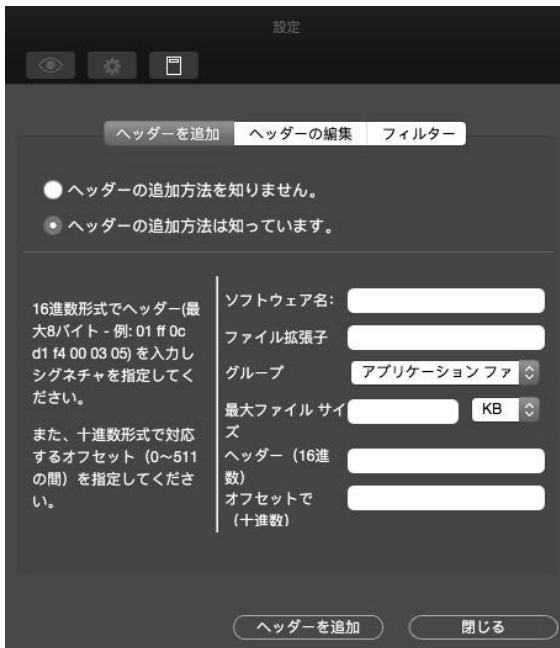


4. Add（追加）ボタンをクリックし、追加したいファイル形式の場所を参照します。

- 5.対応しているファイルの種類の一覧に追加するためには、同じ種類のサンプルファイルを少なくとも10個以上追加する必要があります。
- 6.追加したファイルの種類の名前が左側のボックスに表示されます。
- 7.ダイアログボックスにファイルヘッダー名を入力し、Select Group（グループの選択）ドロップダウンリストからファイルヘッダーの種類を選択し、Put Average File Size（平均容量の入力）テキストボックスから容量を選択します。
- 8.Add File Type（ファイル形式の追加）ボタンをクリックします。

ファイル形式を手動追加する方法:

- 1.Stellar Data Recovery を起動します。
- 2.ツールバー上の Preferences（詳細設定） オプションを選択 Settings（設定）ボタンをクリックすると、Settings（設定）画面が開きます。
- 3. アイコンをクリックし、Settings（設定）画面で Add File Type（ファイル形式の追加）タブを選択します。



設定

ヘッダーを追加 ヘッダーの編集 フィルター

ヘッダーの追加方法を知りません。
 ヘッダーの追加方法は知っています。

16進数形式でヘッダー(最大8バイト - 例: 01 ff 0c d1 f4 00 03 05)を入力し、シグネチャを指定してください。
また、十進数形式で対応するオフセット (0~511の間) を指定してください。

ソフトウェア名:
ファイル拡張子:
グループ: アプリケーションファ
最大ファイルサイズ: KB
ヘッダー (16進数):
オフセットで (十進数):

ヘッダーを追加 閉じる

- 4.I know how to add header（ヘッダの追加方法を知っている）オプションを選択し、以下の項目を入力します。
 - ・ Software Name（ソフトウェアの名称）

- ・ File Extension (拡張子)
 - ・ ドロップダウンリストから Group (グループ) を選択
 - ・ Max File Size (ファイルの最大容量) KB 及び MB
 - ・ Header (ヘッダ) 16 進数
 - ・ At Offset (オフセット) 10 進数
5. Add File Type (ファイル形式の追加) ボタンをクリックします。

4.11.1.3.2. ファイル形式の編集

Stellar Data Recovery は、

- ・ Photo Recovery（写真の復元）機能は、多くの写真、オーディオ、ビデオファイル形式に対応、更に、
- ・ Deleted / Raw Recovery（削除/Raw 復元）機能では、多くの写真、オーディオ、ビデオ、文書、記録文書、アプリケーション、テキスト等のファイル形式に対応しています。

対応しているファイル形式の容量の変更または追加したファイル形式の削除方法:

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. ツールバー上の Preferences（詳細設定） オプションを選択し、Settings（設定）ボタンをクリックすると Settings（設定）画面が開きます。
3.  アイコンをクリックし、Settings 画面で Edit File Type（ファイル形式の編集）タブを選択します。



4. リストから目的のファイル形式を選択し、Put New Average Size（新しい平均容量の入力）ボックスに新しい容量を入力します。

5.Edit Size（容量の編集）ボタンをクリックし、保存します。

6.選択したファイル形式をリストから削除する場合は Remove（削除）ボタンをクリックします。

注意:ファイル形式の定義リストで定められているファイルの、正確なサイズのファイルの容量を編集することはできません。ファイル形式の定義済みリストに追加したファイル形式のみ削除できます。

4.11.1.3.3. フィルター



Stellar Data Recovery のフィルタ管理機能は、データ復元時に特定の基準に基づいてファイル形式を対象に含めるか除外するかを設定することが可能です。この機能を使用すると、回復処理を効率化することができます。

たとえば、画像ファイル (*.jpeg、*.bmp、*.tiff など) のみを復元する場合は、include these files only (これらのファイルのみを対象とする) オプションを選択して画像ファイルのみを復元します。一方、グラフィックファイルを復元したくない場合は、Exclude these files only (これらのファイルを対象から除外する) オプションを選択します。

フィルタを適用する方法

- Include these files only (これらのファイル形式に限定する)
- Exclude these files only (これらのファイル形式を対象外とする)



ファイル形式を限定する方法:

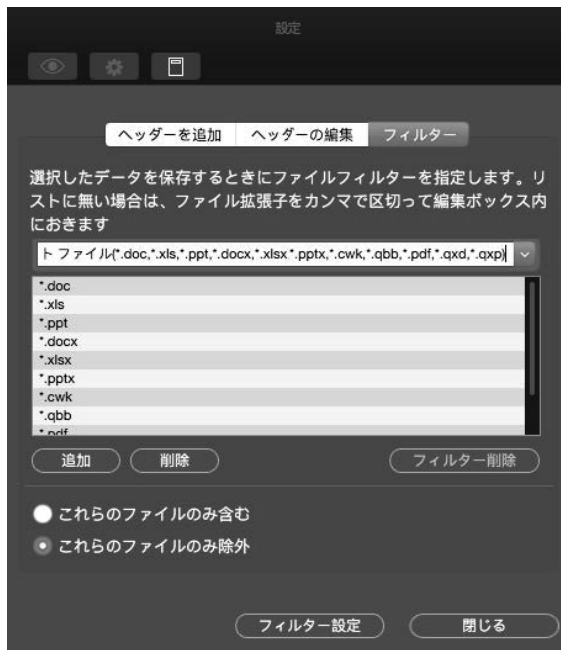
1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. ツールバー上の Preferences (詳細設定)  オプションを選択し、Settings (設定) ボタンをクリックすると、Setting (設定) 画面が開きます。
3.  アイコンをクリックし Settings (設定) 画面の Filter (フィルタ) タブを選択します。



4. Specify file filter while saving selected data（選択したデータの保存中にファイルフィルタを指定する）の下のドロップダウンメニューからファイル形式を選択します
5. Add（追加）ボタンをクリックすると、対象となるファイル形式が一覧表示されます。
6. まだ選択していない場合は、Include these files only（これらのファイルに限定する）オプションを選択します。
復元後、ルートフォルダには選択したファイル形式のみにになります。

ファイル形式を対象外とする方法:

1. Stellar Data Recovery を起動します。
2. ツールバー上の Preferences（詳細設定） オプションを選択し、Settings（設定）ボタンをクリックすると、Settings（設定）画面が開きます。
3.  アイコンをクリックし Settings（設定）画面で Filter（フィルタ）タブを選択します。



4. Specify file filter while saving selected data（選択したデータの保存中にファイルフィルタを指定する）の下のドロップダウンメニューからファイル形式を選択します。
5. Add（追加）ボタンをクリックすると、対象となるファイル形式が一覧表示されます。

6. Exclude these files (ファイル形式を対象外にする) オプションを選択します。復元後、ルートフォルダには選択したファイル形式を除いたファイルだけになります。

注意:ファイルの included/excluded (包含/除外) リストから個々のファイル形式を削除するには、ファイル形式を選択して Remove (削除) ボタンをクリックします。フィルタを削除するには、Remove Filter (フィルタの削除) ボタンをクリックします。Remove Filter (フィルタの削除) ボタンは、更に Set Filter (フィルタの設定) ボタンをクリックしないと有効になりません。

5. 対応しているファイル形式

Stellar Data Recovery は、以下のファイル形式に対応しています

ASF	EMLX	INDD	MEF	PEF	SIT
AI	EPS	JPEG	MUS	PSD	SITX
ARW	FH3	K25	MXF	PNG	SWF / CWS
AIFF	FH5	KDC	NEF	QBB	SWF / FLV
AVI	FH7	MTS	NBP	QXD	SWF / FWS
AU	FH8	MCD	NSF	QBW	TIFF
AAC	FH9	M4A	ORF	QXP	TAX
BZ2	FH11	MOI	OGM	RAF	VWX
BMP	FP3	MXF	OGG	RA	VOB
C	FP5	M4V	Office	RPS	TIFF
CRW	FP7	MOV	PPT	RFL	WMA
CR2	FLA	MPEG	PPTX	RM	WAV
CWK	GIMP (PAT)	MKV	PSP	RAW	WMV
DCR	GIMP (XCF)	MOS	PCT	RTF	XLS
DIVX	GIF	MRW	PDF	RAR	XLSX
DNG	HDMOV	MAIL	PAT	RNS	XCF
DOC	HTML	3GP	PTF	SHW	X3F
DOCX	HQX	MP3	PMD	SCPT	ZIP
ENC	iCal	MP4	PS	SR2	
ERF	iPhoto	MIDI	PLIST	SRF	

6. FAQs (よくある質問)

- 1.このソフトウェアでは、オーディオ、ビデオ、文書、画像しか復元できないのですか？
いいえ、選択したボリューム（パーティション）内の全てのファイルやフォルダを復元することができます。
- 2.このソフトウェアで、特定のファイルを復元することは出来ますか？
はい、そのファイルを右クリックして復元（Recover）ボタンで選択することができます。
- 3.ボリューム（パーティション）を削除してしまいました。その中にあったファイルを復元できますか？
はい、消失や削除してしまったボリューム（パーティション）を検出するために、Search a Lost Volume オプションを選び、スキャンオプション継続することで削除したボリュームからデータを復元することができます。
- 4.Deep Scan（詳細スキャン）とは何ですか？
Deep Scan（詳細スキャン）はボリュームに対して総合的なスキャンを実行して、失われたデータまたは削除されたデータのあらゆる可能性を利用して復元します。このオプションは、ボリュームが著しく破損している場合に特に役立ちます。
- 5.exFAT パーティションからデータの復元は出来ますか？
はい、exFAT パーティションからの復元は可能です。Stellar Data Recovery は NTFS, FAT, FAT16, FAT32 と exFAT ファイルシステムに対応しています。
- 6.APFS ファイルシステムから暗号化されたデータを復元できますか？
はい、APFS ファイルシステムから暗号化されたデータを復元することが可能です。Stellar Data Recovery は、APFS Encrypted Drive Recovery と APFS File Vault Recovery にも対応しています。
- 7.APFS Fusion Drive からデータを復元できますか？
はい、Stellar Data Recovery は APFS Fusion ドライブからデータを復元することができます。
- 8.Stellar Data Recovery は、T2 セキュリティチップシステムからのデータ回復に対応しているか
はい、もちろんです。詳しい手順については、本マニュアルの「Kernel 拡張 (KEXT) を有効にする理由」をご覧ください。
- 9.M1 チップシステムからデータを回復できるか？
はい、もちろんです。詳細な手順については、本マニュアルの「システム整合性保護 (SIP) を無効にする理由」の項を参照してください。
- 10.特定のファイルだけ探して復元する方法は？
特定のファイルをプレビューウィンドウで検索するか、File Type List タブから File Types カテゴリフォルダで種類を選ぶことができます。選択した 'file types folders' のファイルがファイルリスト画面に表示されるので、ファイルを選択して Recover をクリックします。ファイルは指定した保存先に保存されます。
- 11.Stellar Data Recovery の試用版では何ができるのですか？
Stellar Data Recovery ソフトウェアの試用版では、データを復元したい記憶媒体をスキャンし、復元可能なファイルをプレビューすることができます。Stellar Data Recovery の試用版では、スキャン後に最大 10 MB の容量のファイルのプレビューを見ることができます。ファイルを復元して保存するには、製品を購入して登録する必要があります。
- 12.Stellar Data Recovery は、不良セクタを含むドライブからデータを回復できますか？
はい、出来ます。不良セクタを含むドライブから安全にデータを復元するためには、そのドライブのイメージを作成します。Stellar Data Recovery には、ドライブのイメージを簡単に作成して安全に復元を試みることができる機能が備わっています。イメージの作成に成功したら、このイメージに対してスキャンを行い、消失したデータを簡単に復元します。

13.4K ドライブとは何ですか？

4K ハードドライブの構造は、セクタギャップを減らし、ハードドライブのスペース使用率を大幅に向上させるために開発されました。4K ハードドライブのセクタサイズは 4096 バイトで、従来のハードドライブのサイズよりも大きくなっています。

14.4K ネイティブのハードドライブからのデータ復元に対応していますか？

はい、Stellar Data Recovery は、4K ネイティブのハードドライブからの復元に対応しています。紛失したパーティションの検索、イメージの作成、データのスキャン、データのプレビュー、すべてのファイルシステム（APFS、HFS+、FAT32、NTFS、exFAT）で見つかったデータの復元をすることができます。

15.オペレーティングシステムやコンピュータがクラッシュした場合にデータを回復できますか？

はい。Stellar Data Recovery には外部のブータブルデバイスを使わずとも起動しない Mac やクラッシュしたコンピュータからデータを復元するオプションがあります。詳細については、起動しない Mac やクラッシュしたコンピュータからのデータ復元を参照してください。

16.クラッシュした OS からデータを復元するにはどうすればいいですか？

Stellar Data Recovery は、復元ドライブの作成オプションに対応しています。OS のイメージファイルからデータを復元することができますが、OS をバックアップしていて、OS のイメージファイルをすでに作成している場合に限りです。この機能は、Big Sur、Catalina、Mojave、High Sierra、に対応しています。

17.Stellar Data Recovery を入れた回復ドライブを作成することはできますか？

はい。Stellar Data Recovery は、リカバリードライブの作成オプションに対応しており、起動可能なドライブを作成し、そのリカバリードライブから Stellar Data Recovery を起動することができます。

18.復元したデータを同じドライブに保存できますか？

データの上書きは、永久的なデータの消失を招きます。ソフトウェアは、そのようなことを防ぐための保護手段として同じドライブにデータを書き込むことを許していません。

19.復元処理中は、メディアをシステムに接続しておく必要がありますか？

はい。データ復元処理中にメディアを接続しておくことはとても大切なことです。処理中はソフトウェアがハードドライブに存在するすべての情報にアクセスし読み取りその結果を報告するので、メディアは、復元処理が完全に終了した後に初めて切り離されるべきです。

20.メディアイメージファイルは復元処理にどのような利益が有るのですか？

メディアイメージの作成は次のような利点があります。

- ・イメージファイルは、スキャンや復元処理を高速化します。
- ・不良セクタを持つドライブの損傷が進行し、データ復元の可能性が低下することを防ぎます。
- ・元のメディアが利用できなくなった場合でも、イメージファイルからデータを復元することができます。

21.特定形式のファイルのみを復元したい。特定形式のファイルだけを復元することは可能ですか？

はい、Stellar Data Recovery を使用して要求通りのファイルを復元することができます。特定の形式のファイルのみを復元するには、そのファイル形式が対応されているかどうかを確認してください。対応している場合は、その特定の形式のファイルを復元するためにフィルタ機能を利用します。このファイルの形式が対応していない場合は、このファイルの種類に対応しているファイルの種類の一覧に追加し、フィルタを利用してファイルを修復します。

22.不注意で、今ゴミ箱からいくつかのファイル/フォルダを削除してしまいました。スキャンが終了するのを待たずにこれらのファイル/フォルダをすばやく復元することができますか？

もちろんです。最近削除されたデータを復元するには、未使用ブロックのセクタの読み取りを開始する前にスキャン処理を停止します。プレビューウィンドウに最近削除されたファイル/フォルダのリストが表示されるので、目的のファイル/フォルダを選択して復元します。このように、Stellar

- Data Recovery は最近削除されたファイル/フォルダを完全に数分以内に復元することができます。
- 23.他社製アプリケーションで作成したイメージを使用してリカバリを再開できますか？
このソフトウェアはこのソフトウェアで作成されたイメージからのみデータを復元します。
- 24.CD / DVD ディスクからデータを取得することはできますか？
はい、すべてのオプティカルディスクが検出され、それらからデータを安全に復元することができます。
- 25.著しい損傷を受けた CD / DVD からデータを復元できますか？
はい、オプティカルメディア復元機能を使用すると、著しい損傷を受けたオプティカルメディアからすべてのデータを抽出できます。この復元オプションは、選択した元の媒体にあるすべてのものを復元します。
- 26.部分的に焼かれた/不完全なディスクからの回復は可能ですか？
はい、Stellar Data Recovery は部分的に焼かれたディスクからもデータを回復することができます。
- 27.Stellar Data Recovery¹はマルチセッションディスク内のすべてのファイルシステムを抽出しますか？
はい、ソフトウェアはディスク全体をスキャンし、検出したすべてのセッションの一覧を作成します。その後、必要なファイルシステムを選択することで貴重なデータを復元することができます。
- 28.ドキュメントや写真をオーディオ用 CD に焼き付けましたが、オーディオファイルしか表示されません。焼き付けたデータファイルをその CD から回収することができますか？
はい、Stellar Data Recovery はミックスモード CD からデータを復元することができます。マルチセッション書き込み中にモードが変更された CD からデータを抽出することもできます。
- 29.Stellar Data Recovery はデータを復元するのにどれくらいの時間がかかりますか？
データの復元にかかる時間は、スキャンするドライブの容量によって異なります。ただし、復元処理を高速化するために、目的のファイルだけをスキャンして復元するようにフィルタを設定することができます。
- 30.未割り当て・RAW パーティションからデータを復元できますか？
Stellar Data Recovery を使えば、紛失や破損したデータを未割り当て・RAW パーティションから簡単に復元することができます。このソフトウェアは、接続されたドライブ上の未割り当て・RAW パーティションを見つけ、そこから失われたデータを復元するのに役立ちます。詳しくは、「紛失したドライブ・未割り当てパーティションからのデータ復元」をご覧ください。



Stellar Drive Monitor

1. 概要 Stellar Drive Monitor

Stellar Drive Monitor は、監視対象の特性の値がその判定値（またはユーザーが設定した値）を超えると警告を表示します。さまざまな HDD のパラメータ（温度、パフォーマンス、健全性など）を継続的に監視し、リアルタイムでユーザーに警告します。

主な特徴:

- ・バックグラウンドで連続して動作するため、HDD の状態に関するリアルタイムの情報が得られます。
- ・シリアル番号/モデル番号、パーティション情報などの標準的なハードディスク情報を提供します。
- ・さまざまなハードディスクの特性に関する情報を表示し、またそれらの状態を表示します。
- ・HDD の不良セクタを検索して表示するオプションがあります。
- ・HDD のクローンを作成するオプションがあります（ディスクの複製を作成します）。
- ・任意の PATA / SATA 接続の HDD、USB 接続ドライブ、SSD をテストできます。
- ・簡単、容易に使用可能で、システムパフォーマンスに影響を与えません。
- ・スマート ステータス レポートを保存し、個々の属性を確認することができます。

2. はじめに

2.1. High Sierra 以上使用のシステムドライブからのデータ復元

2.2. ソフトウェアの起動

2.3. ユーザーインターフェイスの詳細

2.1. High Sierra 以上使用のシステムドライブからのデータ復元

Catlina, Mojave や High Sierra, を使用しているシステムドライブからデータを復元する場合、System Integrity Protection (SIP) を disable (無効) にする必要があります。これは、OS X El Capitan で採用されたシステムファイルへのアクセスを制限するための新しい方法で、保護フラグが立てられているシステムファイルとディレクトリを保護します。このセキュリティ機能は新しい macOS 10.13 のシステムドライブ上のファイルへのアクセスを許しませんので、システムドライブ上の失われたファイルを復元したい場合は、SIP を一時的にオフにする必要があります。

MacOS Catlina 10.15, Mojave 10.14 or High Sierra 10.13 の SIP を無効にするには？

SIP をオフにする前に、以下の手順に従って、現在 ON であるか OFF であるか確認してください。

- Utilities をクリック -> Terminal
- SIP が無効になっているかどうかを確認するには、`csrutil status` と入力します。

SIP が有効な場合は、以下の手順で無効 (オフ) にします。

- Mac を再起動します。
- OS X が起動する前に、Apple のロゴが表示されるまで Command + R を押しながリカバリモードで起動します。
- Utilities メニューで、Terminal を選択します。
- Terminal 画面が開いたら以下のコマンドを入力します。
`csrutil disable; reboot`
- Return キーを押します。これで SIP (System Integrity Protection) がオフになります。
- Terminal を閉じます。
- 再起動します。
- Stellar Data Recovery を起動します。
- データを復元するためにボリュームをスキャンしてください。

復元が完了したら、復現モード Terminal で `csrutil enable` と入力して SIP を有効にしてください。

2.2. ソフトウェアの起動

Mac で Stellar Drive Monitor を実行するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- ・ Applications (アプリケーション) フォルダの Stellar Data Recovery ファイルをダブルクリックします。-> その他のツールをクリック -> ドライブを監視

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery ショートカットを作成した場合はそれをダブルクリックします。-> その他のツール をクリック -> ドライブを監視

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery アイコンを作成した場合はそれをクリックします。-> その他のツールをクリック -> ドライブを監視



2.3. ユーザーインターフェースの詳細

このセクションは、ハードドライブの動作状況を分析するために用意されているさまざまな機能について理解し、このアプリケーションに使用に慣れていただくことを目的としています。メイン画面のユーザーインターフェースは、できるだけ単純かつ効率的に操作できるようにしています。



このヘルプ（ユーザガイド）は、接続されているディスクを監視するためのすべてのボタンと設定の機能を解説しています

2.3.1. ボタンの使い方


	<p>Settings（設定）</p> <p>左上角の Settings ボタンをクリックをクリックすると、Stellar Drive Monitor の一般設定、温度の表示設定をすることができます。</p>
	<p>ヘルプ</p> <p>このボタンをクリックすると本ヘルプ（ユーザガイド）を表示します。</p>
	<p>有効化</p> <p>クリックすると、ソフトウェアのアクティベーション（有効化）ができます。</p>
	<p>スキャン</p> <p>このボタンはスキャンを開始します。</p>
	<p>クローン</p> <p>このボタンをクリックすると、ディスクのクローン（複製）の作成を開始します。</p>
	<p>停止</p> <p>このボタンをクリックすると、スキャンやクローン作成動作を止めることができます。</p>
	<p>その他のツール</p> <p>クリックすると、Stellar Drive Monitor のその他のツールにアクセスすることができます。</p>

2.3.2. 設定

設定ボタンでは、Stellar Drive Monitor の設定の変更、アップデートの確認、表示言語の変更を行なうことができます。

以下の手順により、画面上の色々な設定が可能です。

・ Stellar Drive Monitor を起動します。

・ メイン画面上の設定  アイコンをクリックすると、ドロップダウンリストから、以下のオプション設定ができます。

設定

1. 一般

1.1 トレイにステータスを表示する - チェックボックスを有効にすると、システムトレイ（メニューバーの右上角）にディスクの状態を表示します。

2. 温度



- ・ 温度を表示する - 温度を表示する単位を摂氏（°C）と華氏（°F）の選択ができます。デフォルトは摂氏（°C）となっています。
- ・ 温度の警告を有効にする - ✓を入れると温度が判定値に到達するか超えた場合に警告します。
- ・ 警告する温度 - システムシャットダウンの警告を行なう温度を設定します。これにより、HDD の過熱による損傷を防ぐことができます。
- ・ シャットダウンする温度 - PC が警告温度を超えた場合にシャットダウンする行なう温度を設定します。そのような状況が発生する場合は原因の特定をお勧めします。これにより、HDD の故障によるデータのトラブルを防ぐことができます。

OK をクリック、又は閉じるボタンで設定が有効になります。

3. ディスクの監視（モニター）

Stellar Drive Monitor は、システムに接続されているハードディスクのさまざまな特性のモニターを目的としています。

下記がディスクの状態をモニターするための主な機能・項目です。

- ・ディスクステータス（ディスクの状態）
- ・SMRT ステータス（SMART の状態）
- ・ディスクパーティション（パーティションの状態）
- ・スキャンディスク（不良セクタの検索）
- ・クローンディスク（クローン：複製の作成）



システムに複数のディスクが接続されている場合は、右上のドロップダウンリストから対象とするドライブを選ぶことができます。

3.1. ディスクステータス

この機能は、HDD の一般的な正常度に関する情報を扱っています。システムに複数のドライブが接続されている場合は、右上のドロップダウンリストから対象のドライブを選択することができます。

情報の構成

- ・温度: HDD が正しく動作するか否かは、ドライブの温度上昇速度によって決まります。ドライブの温度範囲で、ドライブ本体から検出された温度に従って表示色が変わります。ドライブの適切な温度範囲を以下に示します。

HDD 本体の温度	適合度合い	表示色
50° C 未満	理想的	青/青緑
50° C ~ 65° C	許容範囲	オレンジ
65° C 超過	過熱状態	赤

温度限界はユーザーによる定義であり、設定画面から変更できます。上記の指定範囲を超える温度はドライブの故障の原因となる可能性があります。

- ・パフォーマンス: HDD の性能は、いくつかの要素によって決まりますが、アクセス時間が最も重要な要素であるとも言われています。その理由により、本ソフトウェアでは、ディスクの転送速度を性能として表示します。
- ・健全性: HDD の健全性は合計動作時間、リード/ライトエラーの回数等で決まります。

Stellar Drive Monitor は HDD の健全性を表示します。

HDD の健全性	適合度合い	表示色
80%以上	理想的	青/青緑
79% ~ 65%	許容範囲	オレンジ
65%未満	危険	赤



ディスクに関する統計情報の表示以外に、接続されているディスクの中から選択されているディスクの、ドライブ番号、機種番号、ファームウェア、インターフェースの種類、シリアル番号、合計セクタ数などのディスクの詳細情報も表示します。



パフォーマンス、健全性、および温度特性の現在の値を表示しているタイルの色は、ディスクの状態によって青からオレンジ、赤に変わります。青い色のタイルは理想状態を表し、赤は危機状態を表します。オレンジ色のタイルは、特性値が許容範囲ではあっても警戒レベルであることを表します。

3.2. SMART ステータス

SMRT ステータス画面は、HDD の S.M.A.R.T.属性全ての情報を表示します。これにより、選択した HDD の全体的な健全性の把握が可能となります。

SMRT ステータス画面は 7 つの項目で構成されています：(特性の) ID、属性の名前、状態（OK または FAIL）、属性（特性の現在の値）、ワースト値（属性がこれまで到達した最悪値）、しきい値（HDD が故障する可能性がある限界値）、および適合度（ディスクの状態を示す目安として使用できます）。



Stellar Drive Monitor の SMART ステータス機能で識別されている特性の一覧は以下の通りです。

属性の名前	説明
Read Error Rate (リードエラー発生率)	HDD のデータ読み込み時に発生した、ハードウェアに起因するリードエラーの発生回数。
Spin Up Time (起動時間)	スピンドルが、起動時に既定の回転数に到達するまでの平均時間
Start Stop Count (起動停止回数)	HDD の起動/停止の合計回数。この数値は電源 OFF 後の再起動や、スリープモードからの復帰などによって増加します。
Reallocated Sector Count (代替処理されたセクタ数)	不良セクタの発生により、代替用に用意された特別な領域のセクタにデータが書き換えられた回数。この数字が多いことは HDD の正常度が悪化していることを示します。

Seek Error Rate (シークエラーの発生率)	データの読み書きを行なう磁気ヘッドが適切な位置に移動しない不具合の発生した回数。位置決め機構の機械的な不具合によって発生します。
Power On Hours (電源 ON 時間)	ディスクの合計通電時間
Spin Retry Count (起動再試行回数)	起動時にスピンドルが規定回転数に到達しないために、再起動を行った合計回数。HDD に構造的な不具合が発生していることを示します。
Calibration Retry Count (校正再試行回数)	ヘッド位置決めシステムの再校正を要求された回数。HDD のヘッドの位置決めシステムに不具合が発生していることを示します
Power Cycle Count (電源サイクル数)	HDD 全体の電源の ON/OFF サイクルの回数
Uncorrectable Errors (訂正不能エラー数)	FCC 機能 (エラー訂正符号処理) で処理不能なエラーの発生回数
High Fly Writes (ハイフライ書き込み)	HDD には、ヘッドが異常な浮上量になっていることを検出し、書き込み動作を保護する Fly High Monitor 機能があり、その状態を検出した場合、データを他の安全な領域に移動することが行われる。Fly High Writes は、このエラーの発生回数を示します。
Power-off retract count or Emergency Retract Cycle (ヘッドの退避回数)	電源 OFF が行われた回数
Load/ Unload Cycle Count (ヘッドロード/アンロードサイクル数)	ヘッドがランディングゾーンから、ディスク上のデータの読み書きを行なう位置に移動するロード/アンロードサイクルを行った回数。
Temperature Celsius (摂氏温度)	機器本体の温度の摂氏表示
Reallocation Event Count (代替処理回数)	再割り当てされたセクタからスペア領域にデータを転送しようとした合計試行回数。成功・失敗した試行は合計してカウントされます。
Current Pending Sector Count (代替処理保留中のセクタ数)	回復不能な読み取りエラーが不規則に発生するために、再割り当て保留状態になっているセクタ数
Uncorrectable Sector Count (訂正不能セクタ数)	読み書き中に ECC では訂正不能なエラーの発生したセクタ総数。値が大きくなるほど、ハードディスクの読み書き機能の問題やディスク表面に欠陥が存在する可能性があります。
UltraDMA CRC Error Count (UltraDMA CRC エラー発生回数)	ICRC (インターフェイス冗長性の確認機能) によって検出された、インターフェイスケーブルを介したデータ転送上で発生したエラー回数。
Write Error Rate (書き込みエラー発生率)	書き込み時に発生したエラーの総数。この値が大きくなるほど、ハードディスクのデータ書き込み機能が悪化していることを示します。
Data address Mark Errors (データアドレスマークエラー)	不正または無効なアドレスマーク検出数

3.3. ディスクパーティション

ディスクパーティション（ディスクの分割）は、異なるファイルシステムでフォーマット可能な、色々な容量のディスクスペースを作成する方法です。これらの分割された領域はパーティションと呼ばれます。

ディスクパーティション機能は、以下のような HDD のパーティションの詳細を表示します。

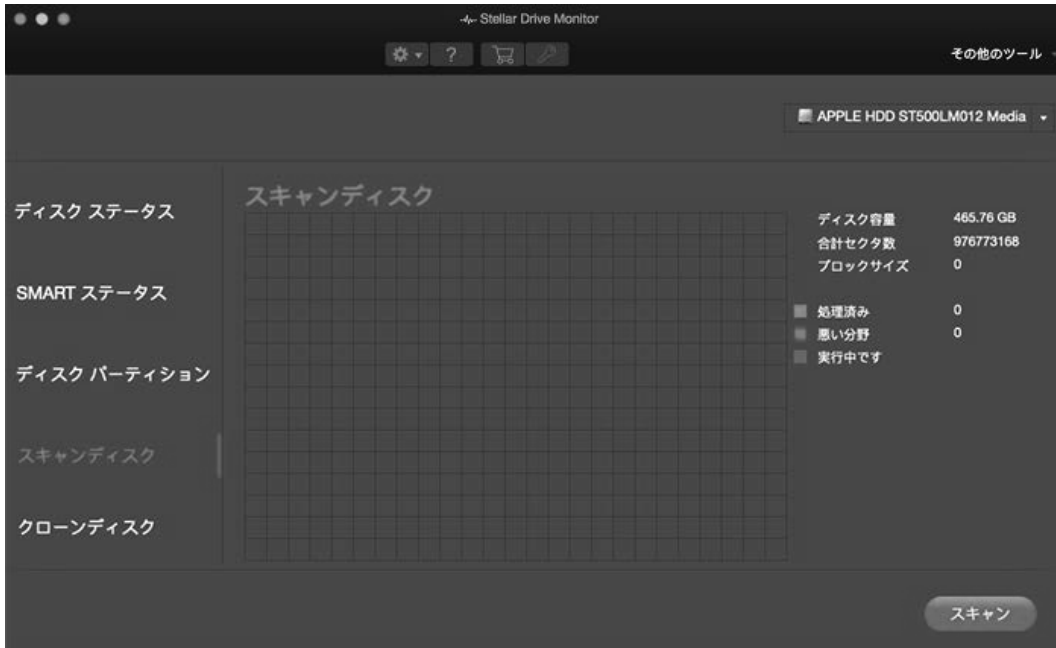
- ・パーティション: 夫々の領域を「C:」、「D:」のようなドライブレターで表示します。
- ・状態: 夫々のパーティションの状態を Healthy（正常）や Failed（故障）で表示します。
- ・空き容量: 利用可能な容量を、232 GB free of 313 GB（313GB 中 232GB）のように表示します。また、空き容量を 74% 空きのようにパーセンテージで表示します。
- ・また、空き容量を 74% 空きのようにパーセンテージで表示します。



また、シリアル番号やインターフェースの種類や容量も表示します。

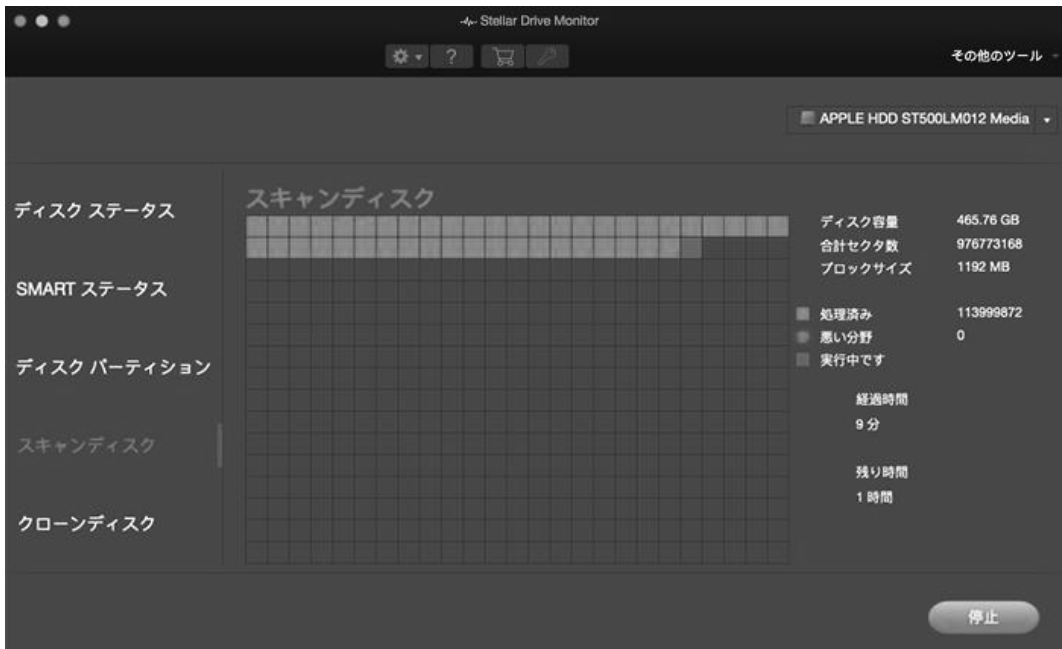
3.4. スキャンディスク

Stellar Drive Monitor のスキャンディスク機能は HDD の不良セクタを検索します。この動作は、検索動作（スキャン）で検出されたディスク内のすべての不良セクタを報告します。



スキャンディスク の実行方法

- ・ Stellar Drive Monitor を起動します。
- ・ 画面の右上のドロップダウンリストで、対象とするディスクを選択します。
- ・ スキャンをクリックするとスキャンが始まり、状況を Scan 画面で確認することができます。



- ・ スキャンが完了すると'スキャンが完了しました' メッセージが表示されるので、OK をクリックします。



正常な処理済みブロックは青で表示され、不良ブロックは赤で表示されます。合計経過時間とスキャン動作の完了までの残り時間も画面の右側に表示されます。



スキャン動作は、停止ボタンをクリックするといつでも止めることができます。ただし、一度スキャン動作を停止した場合、再度スキャンを開始した場合でも、停止したブロックからではなく、再度先頭から開始されます。



不良セクタが検出された HDD は クローン を作成することを強くお勧めします。不良セクタを持つ HDD には、故障の可能性が高確率で存在します。

3.5. クローンディスク

ディスクのクローン（複製）は、元のディスクのすべての詳細を保持しながら、送り元ディスクから送り先ディスクにデータの全てをコピーする機能です。クローン作成機能は、送り先ディスクの既存のデータが送り元ディスクのデータで上書きされます。上書きされた送り先ディスクのデータは完全に消失し、データの復元はできません。

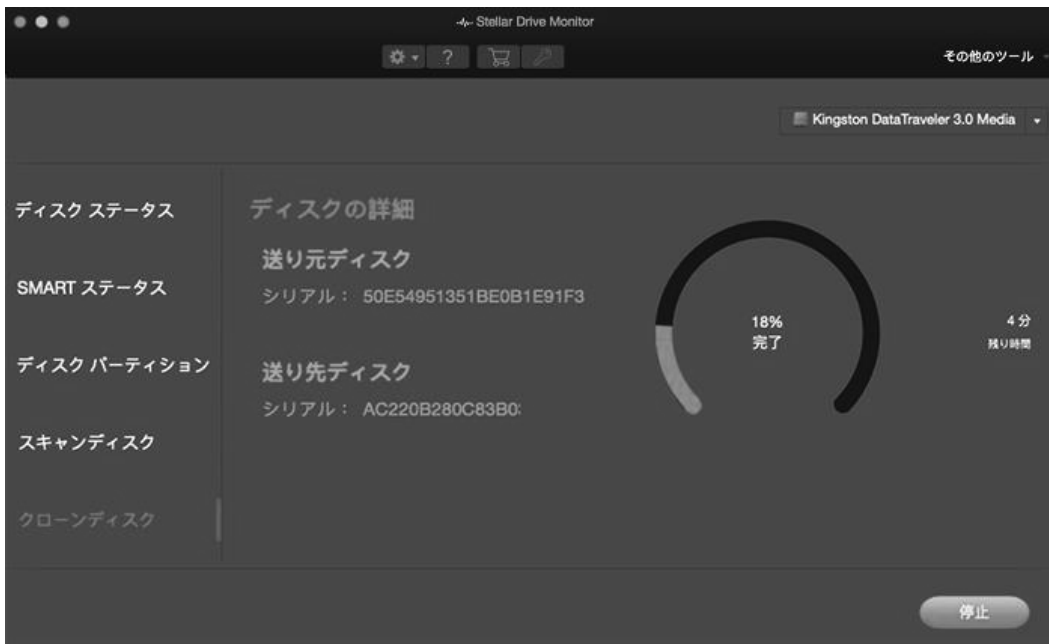


ディスクのクローン（複製）の作成方法：

- ・ Stellar Drive Monitor を起動します。
- ・ 右上のドロップダウンリストから、送り元を選択します。ディスクの詳細が表示されます。
- ・ 右側中ほどのドロップダウンリストから、送り先を選択します。ディスクの詳細が表示されます。
- ・ 開始をクリックするとクローンが始まります。
- ・ 警告メッセージが表示されますので、送り元と送り先が正しければ、開始をクリック、間違っていればキャンセルをクリックして中止します。



- ・複製動作が始まり、複製の進行状況が右側の円グラフにパーセンテージで表示されます。



- ・複製処理が終了すると、'Disk clone finished'（複製が完成）メッセージが表示されるので、OKをクリックしてください。



- ・経過時間と残り時間も画面右側に表示されます。



送り先ディスクの容量が送り元ディスク以下の場合、'クローン先のディスクサイズが、クローン元よりも小さいです。異なるクローン先のディスクを選択してください'と表示されます。



クローン先のデータは、複製の作成により完全に失われ、二度と復元することはできません。上書きはディスクの先頭から行われます。送り先ディスクは送り元ディスクよりも大きい容量が必要です。

4. FAQs (よくある質問)

1. Stellar Drive Monitor は、何種類の HDD に対応しているのですか？

PATA/SATA、USB ドライブ（メモリ含む）と SSD です。

USB メモリの場合、S.M.A.R.T.情報、機種名、シリアル番号の表示はできません。

2. HDD の温度、正常度やパフォーマンス（性能）が表示されないのですが？ 分析対象のドライブのハードウェア（HDD コントローラ、ポートマルチプライヤなど）側の問題、またはドライバが検出をブロックしている可能性が有ります。 ディスクコントローラのドライバを更新すると、問題の解決に役立つことがあります。 Mac ではバージョンによってドライバが異なることもあるため、異なるバージョンの Mac を使用することで解決する場合があります。

3. HDD の温度が動作上重要な役割を果たすのはなぜですか？

高速な HDD は、シャーシ上に部品が非常に密集しています。 このために、HDD は熱くなり動作速度は低下します。 また同時に信頼性も低下します。

Stellar Drive Monitor は、HDD 本体の温度を継続的に検知することができるので、必要に応じて特定の限界を超えた温度の上昇について警告を発するように設定することができます。

4. HDD 上の不良セクタを推定する機能を持っていますか？

はい、不良セクタを推定できます。 すべてのブロックを分析し、その結果により、不良セクタ数を算出します。

スキャンディスク機能を使用すると、HDD 全体の詳細なスキャン（Deep Scan）を行ない、不良セクタの数を確認することもできます。

5. なぜ HDD のクローン（複製）が必要なのですか？

HDD の使用頻度が高く継続的に使用しているために、システムをシャットダウンする機会が無かったり、HDD 内の不良セクタの数が増加して、ディスクの正常な動作が妨げられたりすると HDD のデータは失われます。 HDD の不適切な動作を避け、データの安全を維持するためには、バックアップをとることが必須です。 HDD のクローンを作成することもその一つの方法です。

Stellar Drive Monitor の”クローンディスク”機能を使用すると、切迫した問題を回避するためのクローン作成を容易にすることができます。

6. 容量の小さな HDD にクローン（複製）することは出来ますか？

いいえ、送り先は、送り元と比較して容量が大きいことが必要です。

7. Stellar Drive Monitor が選ばれる理由は？

Stellar Drive Monitor は、不要なデータ損失からユーザーを守るための予防的な手段です。 HDD の正常度とパフォーマンスを監視し、ほとんどの場合、データ損失への筋道が確定する前に予知し警告を発します。



Stellar Repair for Photo

1. Stellar Repair for Photo の概要

Stellar Repair for Photo は、破損または損傷した画像ファイルを修復するための包括的なソリューションを提供します。このソフトウェアは、複数の画像形式に対応しており、ハードディスク、メモリーカード、その他の記憶媒体から画像ファイルを修復することができます。

このソフトウェアは、インタラクティブなユーザーインターフェイスが丁寧に組み込まれており、指示に従えば、だれでも簡単に数クリックで破損した画像ファイルを取得することができます。この機能を使えば、専門家のサポートなしにツールを操作でき、非常に便利です。

主な機能:

1. 対応形式

- 標準的な形式 -HEIC、JPG、JPEG
- RAW 形式 -ARW、CR2、CRW、DNG、ERF、MRW、NEF、NRW、ORF、PEF、RAF、RW2、SR2、SRF、TIFF、BAY、RAW、SRW

2. 一括修復 1回の修復で複数の画像ファイルを一括して修復するのに便利です。

3. 効果的な JPEG 修復 -破損したヘッダや不正な JPEG ファイル構造を修復します。

4. サムネイル抽出 -画像ファイルが修復できない場合に、ファイル内に存在するサムネイルを抽出するオプションです。

5. 保存前にプレビュー -保存する前に修復された画像ファイルをプレビューするオプションです。

6. オペレーティングシステム -macOS X 10.12 以上に対応しています。

2. はじめに

2.1. ソフトウェアの起動

2.2. ユーザーインターフェイス

2.1. ソフトウェアの起動

Mac で Stellar Repair for Photo を実行するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- ・ Applications (アプリケーション) フォルダの Stellar Data Recovery ファイルをダブルクリックします。-> その他のツール をクリック -> 画像を修復

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery ショートカットを作成した場合はそれをダブルクリックします。-> その他のツール をクリック -> 画像を修復

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery アイコンを作成した場合はそれをクリックします。-> その他のツール をクリック -> 画像を修復

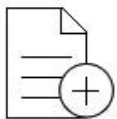
2.2. ユーザー インターフェイス

Stellar Repair for Photo は、非常に使いやすいグラフィカル ユーザー インターフェイスを採用しています。ユーザー インターフェイスには、修復プロセスに必要な機能が含まれています。ソフトウェアを起動すると、以下のようなメインユーザーインターフェイスが表示されます。



「Stellar Repair for Photo」の追加ツールにすばやくアクセスするには、メインインターフェイスの右上にある「その他のツール」ボタン **その他のツール** をクリックします。

2.2.1. ボタン



ファイルを追加




ファイルの追加

このオプションをクリックすると、画像の選択ウィンドウが表示され、ここから修復したい画像ファイルを探して選択できます。選択されたファイルはすべてアプリケーション内でリストアップされません。

追加

このオプションをクリックすると、画像の選択ウィンドウが表示され、ここから修復したい画像ファイルを探して選択できます。選択されたすべてのファイルがアプリケーション内でリストアップされます。デフォルトでは、選択されたすべてのファイルのチェックボックスがオンになっています。必要のないファイルのチェックを外します。

その他のボタンオプション

 ヘルプ	ヘルプ このボタンをクリックすると、ユーザーヘルプガイドが表示されます。
 今すぐ購入	今すぐ購入 このボタンをクリックすると、Stellar Repair for Photo をオンラインで購入できます。
高度な修復	事前修復 ひどく破損した画像の修復にはこのボタンを使います。
 停止	停止 修復を中止する場合は、このボタンをクリックします。

<p style="text-align: center;">修復</p>	<p>修復</p> <p>このボタンを押すと、修復処理が開始されます。</p>
<p style="text-align: center;">修復したファイルを保存</p>	<p>保存</p> <p>このボタンは、修復したファイルを保存するためのものです。</p>
<p style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> 全て選択</p>	<p>全てを選択</p> <p>このオプションを使用すると、リストアップされた全ファイルを選択または選択解除できます。</p>
<p style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> サムネイルを表示</p>	<p>サムネイル表示</p> <p>画像ファイルのサムネイルの表示・非表示を切り替えることができます。</p>
<p style="text-align: center;"> <input style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;" type="button" value=" < "/> </p> <p style="text-align: center;">戻る</p>	<p>戻る</p> <p>このボタンをクリックすると、前の画面に移動します。</p>
<p style="text-align: center;">その他のツール ▼</p>	<p>その他のツール</p> <p>このボタンをクリックして、「Stellar Repair for Photo」に関連する追加ツールにアクセスします。</p>

3. 操作手順

- 3.1. 画像ファイルの追加
- 3.2. 画像ファイルの修復
- 3.3. 高度な修復
- 3.4. プレビューと画像ファイルの保存

3.1. 画像ファイルの追加

Stellar Repair for Photo を使うと破損・損傷した画像ファイルを修復し、任意の場所に保存することができます。Stellar Repair for Photo では、個別または複数のファイルを修復することもできます。「ファイルの追加」 オプションを使用して修復するファイルの一つまたは複数追加することが可能です。

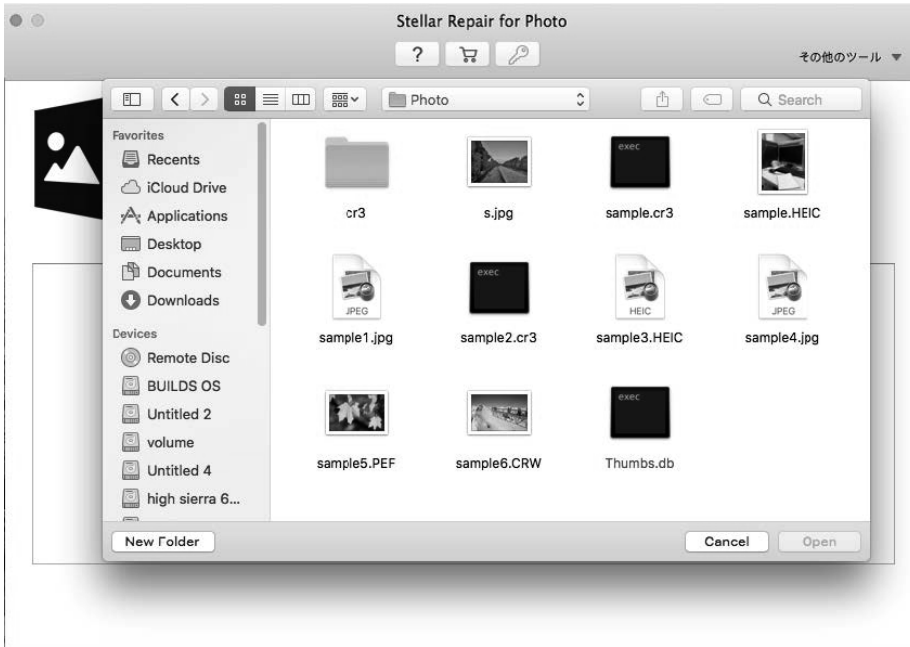
画像ファイルの追加は、以下の手順で行います。

1.Stellar Repair for Photo のソフトウェアを起動します。



2.メインのユーザーインターフェースで、ファイルの追加 ボタンをクリックします。

3.画像の選択 ダイアログが表示されるので、画像ファイルを選択する場所を選び、開く ボタンをクリックします。



4.選択したファイルが以下のように表示されます。

3.2. 画像ファイルの修復

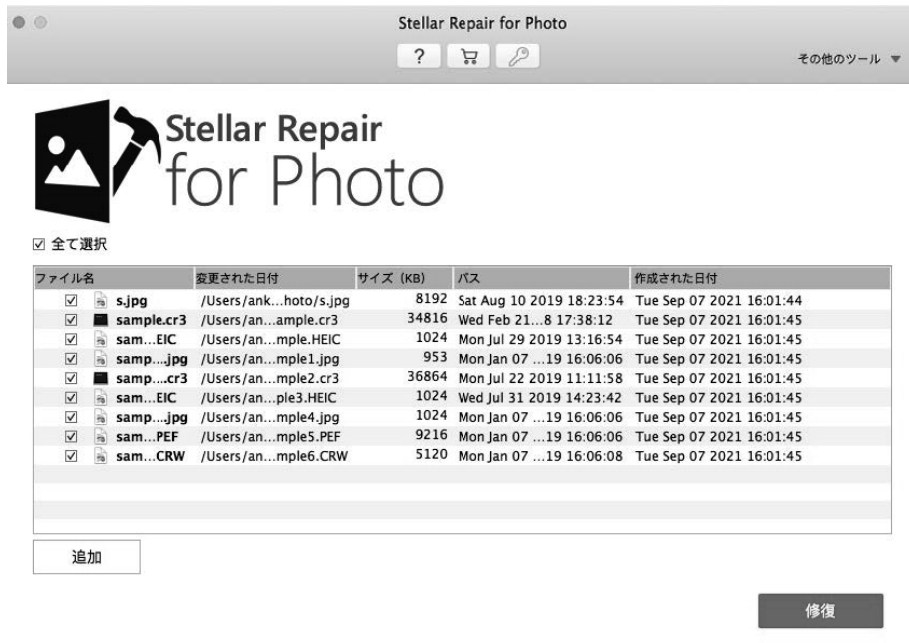
修復対象のファイルを追加すると、以下のようなウィンドウが表示されます。

1. Stellar Repair for Photo を起動します。



2. ホーム 画面では、ファイルの追加 をクリックし、画像ファイルをリストに追加します。

3. リストの中で、修復が必要なファイルにチェックを入れます。ですべてのファイルを選択／解除することができます。



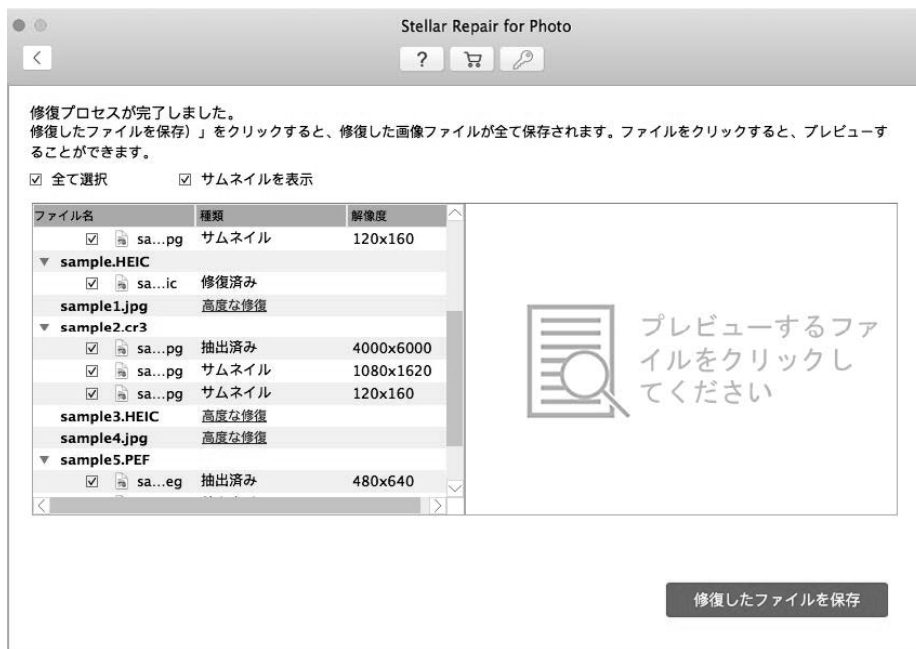
4. 修復 をクリックすると、修復処理が開始されます。



5. 修復プロセスが完了すると、修復完了 のダイアログボックスが表示されるので、OK をクリックします。

3.3. 高度な修復

画像ファイルがひどく破損している場合には、アプリケーションでサンプルファイルを追加して修復することができます。事前復機能は、JPEG/JPG ファイルと HEIC ファイルにのみ対応しています。



サンプルファイルとは、破損したファイルと同じデバイス、同じ形式で作成された作業用のファイルのことです。ただし、サイズは問いません。Stellar Repair for Photo は、作業用サンプルファイルの情報を利用して、破損したファイルを修復します。

1. 修復用のサンプル JPEG ファイルは以下の手順で行います。

1. 画像ファイルのリストから、タイプ 属性の高度な修復リンクをクリックします。

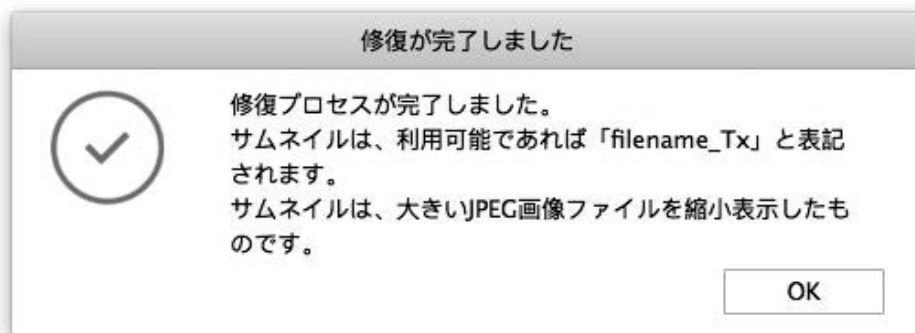


2. ダイアログボックスが表示されたら、次へ をクリックします。

- 3.参照 をクリックして、必要なサンプル ファイルを選択します。
- 4.同じ形式の全ての jpeg に適用する を選択すると、選択したサンプルファイルを一覧内のすべての破損した jpeg ファイルの修復に使用します。



- 5.修復 ボタンをクリックすると、修復処理が開始されます。
- 6.プログレスバーには、ファイルの修復の進捗状況が表示されます。進行中のプロセスを停止したい場合は、停止 ボタンをクリックします。
- 7.修復完了 ダイアログが表示されます。



2.修復用のサンプル HEIC ファイルの追加は以下の手順で行います。

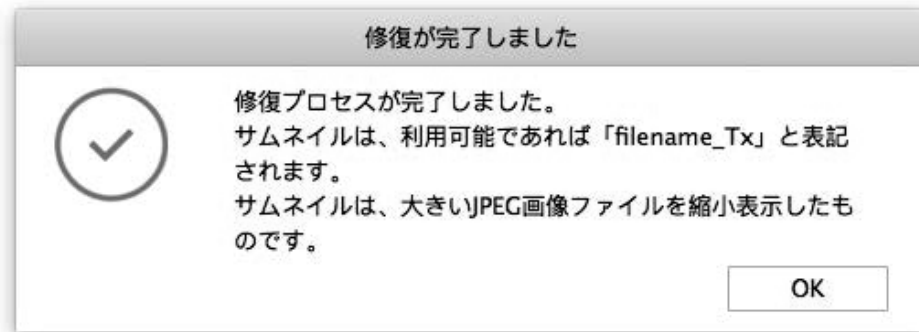
- 1.画像ファイルのリストから、タイプ 属性の高度な修復 リンクをクリックします。



2. ダイアログボックスが表示されたら、次へ をクリックします。
3. 参照 をクリックして、必要なサンプル ファイルを選択します。
注：「スタンダード」の heic 形式ファイルを修復するには、「スタンダード」サイズの heic サンプルファイルが必要です。「スクエア」の heic ファイルを修復するには、「スクエア」サイズの heic ファイルが必要です。
4. 修復 ボタンをクリックすると、修復処理が開始されます。



5. プログレスバーには、ファイルの修復の進捗状況が表示されます。進行中のプロセスを停止したい場合は、停止をクリックしてください。
6. 修復完了 のダイアログが表示されます。



3.4. プレビューと画像ファイルの保存

修復した画像ファイルを任意の場所に保存することができます。

修復したファイルを保存する手順は以下の通りです。

- 1.プレビューウィンドウの左ペインでファイルを選択して表示します。
- 2.左側のペインで、保存が必要なファイルにチェックを入れます。
- 3.サムネイルと、抽出・修復されたファイルの画像が、元のファイルと一緒にプレビューウィンドウに

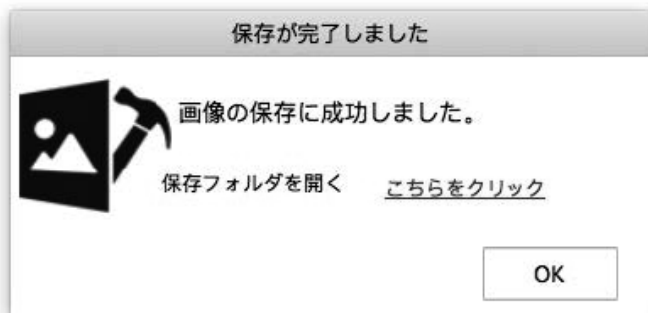
表示されます。 サムネイルを表示 のチェックを入れたり外したりすると、サムネイルの表示/非表示切り替えができます。

注意：このアプリケーションは、heic ファイル形式のプレビューには対応していません。



- 4.修復したファイルの保存 をクリックすると、フォルダの選択 ダイアログボックスが表示されます。
- 5.ダイアログボックスで画像ファイルの保存先を選択し、OK をクリックします。

- 6.指定された場所に修復済みファイル フォルダが自動的に作成されます。ここをクリック を押すと、修復されたファイルが保存されたフォルダが開きます。



- 7.OK をクリックしてメッセージボックスを閉じます。

修復されたファイルが同じ場所に保存されている場合は、ファイルの名前を変更／上書きをするオプションがあるフォルダが存在します というダイアログが表示されます。

- ・フォルダの名前を変更したい場合は、名前を変更 をクリックします。指定した場所にフォルダが保存されます。



- ・以前の修復済みファイル フォルダを新しいフォルダに置き換える場合は、上書き をクリックします。
- クリックするとファイルが存在します というダイアログボックスが開きます。
- 画像の名前を変更したい場合は、名前を変更／すべての名前を変更 をクリックします。
- 前の画像を上書きしたい場合は、上書き／すべて上書き をクリックします。
- 何も行いたくない場合は、スキップ／すべてスキップ をクリックします。



注意：修復された画像ファイルのサムネイルがある場合は、JPEG ファイル フォルダ内の別フォルダに保存されます。

4. よくある質問

1.体験版ではどのようなことができるのか？

デモ版のソフトウェアは評価用です。JPEG ファイルのプレビューを表示します。修復したファイルを保存するには、製品の購入と登録が必要です。

2.サムネイルとは？

「サムネイル」とは、画像ファイルが小さくなったもので、画像の見目がどのようなものか確認することができます。

3.JPEG とは？

JPEG は、デジタル写真（画像）の非可逆圧縮規格である JPEG/JPG を策定した団体名 Joint Photographic Experts Group の略です。

4.HEIC とは？

HEIC ファイルには、iOS デバイスで写真を保存するために一般的に使用されているファイル形式である High Efficiency Image Format (HEIF) で保存された 1 つまたは複数の画像が含まれています。

5.RAW 画像とは？

RAW 画像は、カメラのセンサーで撮影したままの状態画像データを保存した非圧縮のデジタル写真です。

RAW 画像は圧縮されていないため、JPEG 画像に比べてディスク容量をかなり使用します（通常は少なくとも 2 倍以上）。しかし、RAW 画像は、画像圧縮によって元の画像のディテールが損なわれていないため、JPEG 画像よりも高品質です。

6.同一形式の画像ファイルに修復することができるか？

いいえ、JPG 形式の画像ファイルに修復します。

7.修復する JPEG ファイルを選択している際に、「無効な画像」というメッセージが表示されるのはなぜか？

画像ファイルは、ファイルコンテナと画像データの 2 つの部分で構成されています。コンテナは、JPEG 画像を一意に定義する共通の構造です。JPEG ファイルのコンテナが破損している場合、Stellar Repair for Photo ソフトウェアは、ファイルを JPEG ファイルとして認識できず、「無効な画像」というメッセージが表示されます。このような JPEG 画像は修復不可能なほど破損しており、修復することはできません。

8.NAME_T1.jpg、NAME_T2.jpg の意味は？

修復したい画像をスキャンすると、Stellar Repair for Photo ソフトウェアがスキャンした後にリストアップします。また、画像をプレビューすることもできます。サムネイルがある画像は、すべてのサムネイルと一緒に一覧表示されます。サムネイル画像は、IMAGE_NAME_T1.jpg などのように名前が付けられます。T1、T2 は、同じ画像のサムネイルの名前です。1 つの画像に 4 つのサムネイルがある場合、IMAGE_NAME.jpg、IMAGE_NAME_T1.jpg、IMAGE_NAME_T2.jpg、IMAGE_NAME_T3.jpg、IMAGE_NAME_T4.jpg のように表示されます。

9.一部の JPEG ファイルが完全に修復されないのはなぜか？

画像ファイルは、ファイルコンテナと画像データの 2 つの部分で構成されています。コンテナは、JPEG 画像を一意に定義する共通の構造です。JPEG ファイルのコンテナが破損している場合、Stellar Repair for Photo ソフトウェアは、ファイルを JPEG ファイルとして識別することができず、「無効な画像」というメッセージが表示されます。JPEG ファイルのコンテナはそのまま、画像データが破損している場合でも、Stellar Repair for Photo は画像を修復することができます。そのように修復された画像には、色が失われたり、画像の一部が欠けたりするなどの不具合があります。これらの不具合は、画像データが破損していることが原因で起こります。

このような場合には、画像のサムネイルがあれば、それを抽出することをお勧めします。



Stellar Repair for Video

1. Stellar Repair for Video の概要

Stellar Repair for Video は、破損または損傷したビデオファイルを修復するための包括的なソリューションを提供します。このソフトウェアは、複数の動画形式に対応しており、ハードディスク、メモリーカード、その他の記憶媒体から動画ファイルを修復することができます。

このソフトウェアは、インタラクティブなユーザーインターフェイスが丁寧に組み込まれており、指示に従えば、だれでも簡単に数クリックで破損した動画ファイルを取得することができます。この機能を使えば、専門家のサポートなしにツールを操作でき、非常に便利です。

主な機能:

- 対応形式 -AVI、ASF、WMV、MKV、FLV、DIVX、WEBM、MJPEG、MPEG、AVCHD、MTS、MOV、MP4、M4V、3G2、3GP、F4V
- 一括修復-1回の修復で複数の動画ファイルを一括して修復するのに便利です。
- ビデオに関する複数の問題を修復-ヘッダー、ビデオフレーム、サウンドセクションの破損や、ビデオの動きやビデオスライダーの動きのエラーを修復します。
- 高度な修復-ビデオファイルの重度の破損を高度な修復でサポートします。本アプリケーションでは、サンプルファイルを追加することで、そのようなファイルを修復することができます。
- 保存前にプレビュー -保存する前に修復された動画ファイルをプレビューするオプションです。
- オペレーティングシステム -macOS X 10.12 以上に対応しています。

2. はじめに

2.1. ソフトウェアの起動

2.2. ユーザーインターフェース

2.1. ソフトウェアの起動

Mac で Stellar Repair for Video を実行するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- ・ Applications (アプリケーション) フォルダの Stellar Data Recovery ファイルをダブルクリックします。-> その他のツール をクリック -> 動画を修復

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery ショートカットを作成した場合はそれをダブルクリックします。-> その他のツール をクリック -> 動画を修復

又は、

- ・ デスクトップに Stellar Data Recovery アイコンを作成した場合はそれをクリックします。-> その他のツール をクリック -> 動画を修復

2.2. ユーザーインターフェース

Stellar Repair for Video は、非常に使いやすいグラフィカル ユーザー インターフェースを採用しています。プログラムを起動すると、以下のようなメイン画面が表示されます。



「Stellar Repair for Video」の追加ツールにすばやくアクセスするには、メインインターフェースの右上にある「その他のツール」ボタン **その他のツール** をクリックします。

2.2.1. ボタン

Stellar Repair for Video は、以下のボタンを使うことができます。

 ファイルを追加	ファイルの追加 ステラ リペア フォー ビデオのホーム画面にあるボタンです。これをクリックすると、修復対象のビデオファイルが追加されます。
	ヘルプ このボタンをクリックすると、ユーザーヘルプガイドが表示されます。
	購入 このボタンをクリックすると、 ステラ リペア フォー ビデオ を購入することができます。
	アクティベート このボタンをクリックすると、購入後にソフトウェアのアクティベーションを行うことができます。
	戻る このボタンをクリックすると、現在の画面の前の画面に移動します。
	停止 このボタンをクリックすると、処理が停止します。
	追加 このボタンでは、ビデオファイルをリストに追加することができます。
	プレビュー このボタンをクリックすると、選択したファイルがプレビューされます。
	修復 このボタンを押すと、修復処理が開始されます。
	修復したファイルの保存 このボタンをクリックすると、修復されたファイルが保存されます。
	その他のツール このボタンをクリックして、「Stellar Repair for Video」に関連する追加ツールにアクセスします。

3. 操作手順

- 3.1. 動画ファイルの追加
- 3.2. ビデオファイルの修復とプレビュー
- 3.3. 高度な修復
- 3.4. 修復した動画ファイルの保存

3.1. 動画ファイルの追加

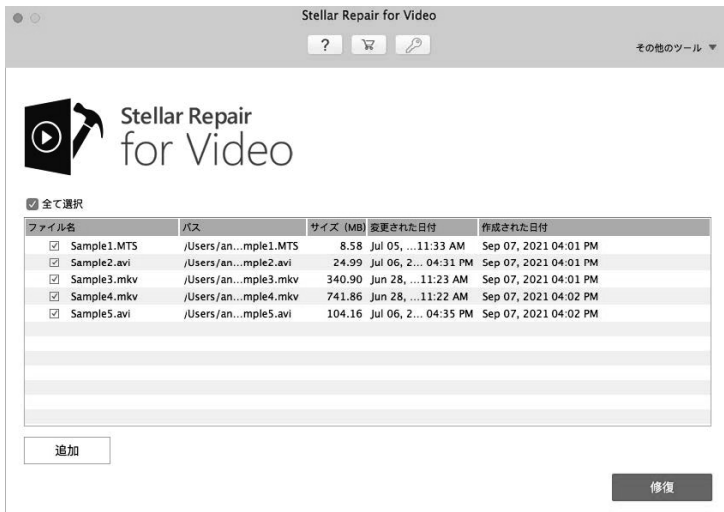
Stellar Repair for Video は、個別または複数のビデオを一度に修復することができます。

修復用のビデオは以下の手順で追加します。

1. Stellar Repair for Video を起動します。
2. メイン画面でファイルの追加 ボタンをクリックして、修復するファイルを追加します。



3. ファイルの追加 ダイアログボックスが表示されます。
4. 参照して必要なビデオをリストに追加します。複数のファイルを追加して修復することも可能です。
5. 選択されたビデオは、ソフトウェアにリストとして表示されます。
6. それぞれのチェックボックスをクリックして、修復したいファイルを選択します。

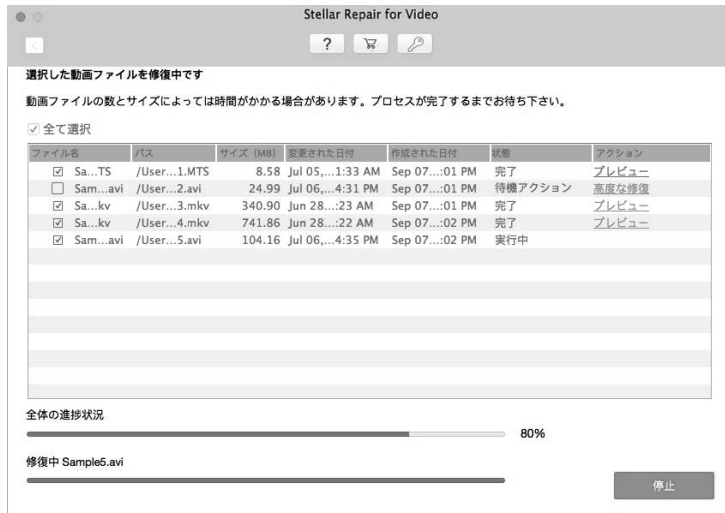


7. 追加 ボタンをクリックすると、リストにファイルを追加することができます。
正常にリストに追加された後は、ファイルの修復、プレビュー、希望の場所への保存が可能です。

3.2. ビデオファイルの修復とプレビュー

選択したファイルの修復は以下の手順で行います。

1. 選択したファイルを修復するには、**修復** ボタンをクリックします。選択したファイルの修復がツールによって実行されます。
2. プログレスバーには、ファイルの修復の進捗状況が表示されます。進行中のプロセスを停止したい場合は、「停止」ボタンをクリックします。



3. 修復されたファイルの状態は、「ビデオファイルの一覧」画面で確認できます。
 - 修復に成功したファイルは、「完了」のステータスで表示されます。
 - 重度の損傷があるファイルは、事前に修復する必要があります。これらのファイルには「アクション待ち」のステータスが表示されます。詳細は「高度な修復」をクリックしてください。
 - 修復プロセスを停止すると、「中止済み」ステータスが表示されます。

4. 「修復プロセスが完了しました」というメッセージが表示されます。



修復したビデオのプレビューは以下の手順で行います。

- ・ビデオファイルをプレビューするには、アクション属性のプレビュー ボタンをクリックします。



注：ソフトウェアのデモ版では、アプリケーションは修復されたファイルの部分的なプレビューを表示します。

3.3. 高度な修復

動画ファイルがひどく破損している場合、アプリケーションでサンプルファイルを追加して修復することができます。高度な修復機能は、待機アクション ステータスのファイルでのみ利用できます。



サンプルファイルとは、破損したファイルと同じデバイス、同じフォーマットで作成された作業用のファイルのことです。ただし、サイズは問いません。Stellar Repair for Video は、作業用サンプルファイルの情報を利用して、破損したファイルを修復します。また、データヘッダーが破損している動画も修復します。

サンプルファイルを追加するには以下の手順で行います。

1. 動画ファイルのリストから、アクション属性の高度な修復リンクをクリックします。



2. ダイアログボックスが表示されたら、次へ をクリックします。
3. 参照 をクリックして、必要なサンプルファイルを選択します。
4. 「同じ形式の全てのファイルに適用する」というオプションを選択すると、選択したサンプルファイルをリスト内のすべての破損した動画ファイルの修復に使用することができます。



5. 修復ボタンをクリックすると、修復処理が開始されます。
6. プログレスバーには、ファイルの修復の進捗状況が表示されます。進行中のプロセスを停止したい場合は、停止 ボタンをクリックします。
7. 「修復プロセスが完了しました」というダイアログが表示されます。



3.4. 修復した動画ファイルの保存

修復した動画 ファイルを保存する手順は以下の通りです。

- 1.修復されたファイルのリスト画面から、保存したいファイルをそれぞれのチェックボックスをクリックして選択します。
- 2.修復したファイルを保存 ボタンをクリックします。



3.ダイアログボックスが表示されます。

- 4.ファイルを元の場所に保存したい場合は「修復したファイルを元の場所に保存する」を、ファイルを任意の場所に保存したい場合は「ファイルを任意の場所に保存する」を選択します。



5.参照 をクリックして、ビデオファイルを保存する場所を選択します。

6.保存 をクリックすると、ファイルの保存状況を示すプログレスバーが表示されます。



7.「修復したファイルの保存に成功しました」というメッセージが表示されます。OK をクリックして、メッセージボックスを閉じます。



4. よくある質問

1 体験版ではどのようなことができる？

デモ版では、動画ファイルの一部をプレビューすることができます。ファイルの修復や保存を行うには、本ソフトウェアの購入と登録が必要です。

2 体験版ではどのようなことができるのか？

ビデオファイルの修復にかかる時間は、選択したビデオファイルのサイズと数によります。

3 修復の際に、ビデオファイルに変更を加えることはある？

いいえ。修復プロセスが完了した後は、修復されたファイルを元の場所または任意の場所に保存する選択をすることができます。

4 修復されたビデオファイルは、Mac でも動作するか？

はい、Stellar Repair for Video で修復された Mac システム上のファイルを見ることができます。

使用許諾条件書

本使用許諾条件書（以下「本規約」）は、本製品をお客様に使用していただく前提となる条件を記載したものです。本製品のインストールを実行する前に、まず本規約をよくお読みください。

本規約にご同意していただけない場合には、本製品の複製またはインストール等の使用を実行せず、ご購入後 30 日以内に領収書と共に、弊社にご返却ください。（ダウンロード版の場合は、ダウンロードプログラムを削除してください）製品代金を返金いたします。本製品の複製またはインストールを実行された後は、第 6 条に定める他は返金・交換には応じられませんので、ご了承ください。

本規約は民法 548 条の 2 が定める定型約款に該当し、本製品の複製またはインストール等の使用を実行された時点で、本規約の各条項に同意したものとみなされますので、ご了承ください。本規約にご同意頂いたお客様は、弊社指定の方法でユーザー登録をすることをおすすめします。

第 1 条（使用許諾等）

弊社は、お客様が本規約に同意し遵守されることを条件として、本製品中のソフトウェア（以下「本ソフトウェア」）を日本国内で使用する権利をお客様に許諾いたします。また、本製品に同梱する本ソフトウェアに関するマニュアル等の印刷物（以下、「本マニュアル等」）については、お客様が本規約に同意し遵守されることを条件としてお客様に譲渡いたします。弊社は、本ソフトウェアおよび本マニュアル等に関する著作権その他の知的所有権をお客様に譲渡するものではありません。

第 2 条（使用条件）

弊社は、本製品 1 ライセンスにつき、ユーザー 1 名の弊社が定めるコンピュータ台数に限り、インストールして使用することを許諾いたします。また、お客様は本製品をサーバーハードウェア上へインストール、または保存し、クライアントハードウェアから使用することはできません。

第 3 条（禁止事項）

お客様が、以下の各号の行為を行なうことは禁止いたします。

- (1)本ソフトウェアをバックアップの目的以外で複製すること
- (2)本ソフトウェアの改変・結合・リバースエンジニアリング（逆アセンブル等）・解析等
- (3)本ソフトウェアを第三者へ再配布、再使用許諾または公衆送信（送信可能化を含む）すること
- (4)本製品または複製物（本条第 1 号の目的で複製したか否かを問わない）を譲渡・転売すること（ただし、弊社の承認する者を除く）
- (5)本製品または複製物（本条第 1 号の目的で複製したか否かを問わない）を貸与・レンタルに類する行為、または中古取引をすること
- (6)本ソフトウェアを使用して他ソフトウェアを個人利用の範囲を超えて無断複製および無断使用すること
- (7)本ソフトウェアを第三者に送信可能な状態でネットワーク上に蓄積すること、また本ソフトウェアを第三者に送信すること
- (8)弊社がお客様に提供する本製品の識別情報（シリアルナンバー等）を第三者への開示・提供すること

第 4 条（フィードバック）

お客様は、本製品に関するコメント、提案及び推奨（修正、改良、改善など）（以下、総称して「フィードバック」といいます）を弊社に提供することができます。この場合、お客様は弊社にフィードバックにかかわる著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条の権利その他の権利を含みます）、特許権、実用新案権、意匠権、商標権等の知的財産権その他一切の権利は、フィードバックを行ったお客様に帰属しますが、フィードバックの提供と同時にソースネクストに譲渡し又はその権利を放棄したものとみなされ、弊社は一切の対価を払うことなく使用等の一切の行為をすることができるものとします。

第 5 条（有効期間）

- 1.本規約の効力は、お客様が本製品の複製またはインストール等の使用を行なった時点で発生するものとします。
- 2.お客様が、本規約のいずれかの条項に違反した場合、または弊社の著作権その他の知的所有権を侵害した場合には、弊社はお客様への使用許諾を解除することができます。
- 3.前項によりお客様の使用許諾が解除された場合には、本製品をすみやかにアンインストールし、CD-ROM 等の記録媒体を破棄するかお客様のご負担で弊社に返却するものとします（弊社の指示があればこれに従うものとします）。

第 6 条（保証範囲）

- 1.本製品の選択および使用効果については、お客様の責任とさせていただきます。また、弊社は、本条以外には、本製品、本マニュアル等、および本条第 5 項のサポート・サービスに関して一切の保証責任または契約不適合責任を負わないものとします。
- 2.弊社は、本製品にプログラムの使用上支障となる物理的欠陥があり、弊社が当該欠陥につき弊社の責に帰すべき事由があることを確認した場合には、ご購入日から 90 日以内に限り、無料で別の本製品

- と交換いたします。
- 3.製品がおお客様の動作環境にて正常に動作しない場合、弊社が提供する安心サービスを利用することが可能です。ただし、安心サービスの条件を満たしていることが必要です。(詳しい条件等については、安心サービス規約をご参照ください)
 - 4.弊社は、本製品について、本ソフトウェアのプログラムに誤り(バグ等)が存在しないように最大限努力を行います。本製品は現状のまま提供されるものであり、弊社は、本製品のバグや不具合の不存在を保証するものではありません。ただし、弊社は、本ソフトウェアのプログラムに誤り(バグ等)があることを弊社が確認し、当該製品の販売中、および販売終了後1年6ヵ月までの間に弊社が当該誤り(バグ等)を修正した場合には、ユーザー登録のあるお客様に対し修正したソフトウェアまたは修正に関連する情報を提供します。ただし、修正したソフトウェアまたは修正に関連する情報を提供することの要否・時期および提供手段等については、弊社にて定めるものとします。修正したソフトウェアにも本規約が適用されるものとします。
 - 5.弊社は、お客様がユーザー登録をした場合に限り、本製品に関する弊社所定の製品サポートを提供します。
 - 6.いかなる場合であっても、弊社は、本製品がおお客様の特定の利用目的に合致することや、特定の結果の実現を保証するものではありません。

第7条 (免責)

- 1.弊社は、本規約の各条項に従って制限された限度においてのみ、本製品についての責任を負うものとします。弊社は、本規約の各条項において保証しないとしている事項、責任を負わないとしている事項、お客様の責任としている事項については、債務不履行責任、不法行為責任その他責任原因を問わず、一切の責任を負いません。
- 2.本製品に関連して、お客様と第三者との間において生じた取引、連絡、紛争等について、弊社は一切の責任を負いません。
- 3.本製品は、システムの一部に外部システムを利用する場合があります。外部システムの利用ができなくなった場合、本製品の利用も不可能となる場合がありますが、弊社はそれによってお客様に生じた損害について、一切の責任を負いません。
- 4.弊社の責めに帰すべき事由によって本製品に関してお客様に損害が生じた場合であっても、弊社は弊社に故意または重過失がある場合にのみ損害賠償責任を負うものとします。
- 5.前項の場合において弊社が負う賠償責任の範囲は、本製品の代金相当額を超えて賠償する責任を負わないこととします。また、付随的損害、間接損害、特別損害、将来の損害及び逸失利益にかかる損害については、賠償する責任を負わないこととします。
- 6.本規約において弊社の責任を免除または限定する規定が、民法、消費者契約法その他の法令により無効または合意しなかったものとみなされた場合は、弊社は、お客様に対して、お客様に実際に生じた直接的かつ現実の損害を賠償する責任を負うものとします。

第8条 個人情報の取り扱い

弊社は、本製品によりお客様の個人情報を取得する場合、「個人情報の取り扱いについて」に従い、適切に取り扱います。

第9条 本規約の変更

- 1.弊社は、お客様の一般の利益に適合する場合のほか、社会情勢、経済事情、税制の変動等の諸般の状況の変化、法令の変更、本製品に関する実情の変化その他相当の事由があると認められる場合には、民法548条の4の規定に基づいて、本製品の目的の範囲内で、本製品の内容、条件その他本規約の内容を変更できるものとします。最新の本規約はこちら(<http://www.sourcenext.com/permission/rm2/>)をご覧ください。
- 2.弊社は、前項の定めに基づいて本規約の変更を行う場合は、変更後の本規約の内容を、弊社webサイト上に表示し、または弊社の定める方法によりお客様に通知する方法で周知するものとし、相当な期間を経過した日から、変更後の利用規約は適用されるものとします。
- 3.お客様は、第1項の定めに基づき本規約が変更された後において本製品の利用継続を望まない場合、前項に定める変更後の利用規約が適用される日までの間、弊社が定める方法により、本製品の解約を申し出ることができます。

第10条 (その他)

- 1.本規約は日本法に従って解釈されるものとします。
- 2.本製品および本規約に関連する紛争については、東京地方裁判所を第一審専属管轄裁判所とします。

2020年3月31日現在
ソースネクスト株式会社